全国高校大会に万全

菊地慶一郎
（岩手県協会会長）

42年度の国体の国体誘致運動は千田知事以下県民が情熱と努力を傾けて万全の措置を講じたが、ついに誘致できなかった。聞くところによると、県内でビッグゲームの実績がなかったことなどが主なる理由であったもようである。確かに本県の実績としては、いままでは冬季のスケートぐらいなものである。この点でやむを得ないと思っていたが実に残念なことであった。しかし41年度インターハイのハンドボール、剣道、体操、スケートの四種目が本県に決定したのであるから、せめてもの慰めと思っている。

最近でも関西方面の人たちは「岩手県はどこにあるか」ことに「盛岡市はいったい青森県でしたか、秋田県でしたか」などといわれるように実に辺ぴな土地の代名詞になっている。しかし実際に当地方へ来られる人たちは「山河秀明にして、スモッグなど全然感じられぬ」といい、風光明眉な岩手県の姿を見て「来てよかった。実にすばらしい。これから平民宰相原敬、詩人の石川啄木、宮沢賢治。さらには新渡波稲造のような人物が傑出したんだなあ」と歓声をあげるほど自然の美に恵まれている。しかも県民性もこれまた他県の範にたると自信を持っている。

こうした環境のなかで41年度インターハイのハンドボールを開催できることは、私は非常に誇りと喜びを感じている。〃南部片富士〃といわれる岩手山を西北に見る観武ヶ原に国体誘致のための総合グラウンドが生れようとしているし、すでにある青山グラウンドも優秀である。

従来ハンドボールは本県の強い競技の代表的な種目である。盛岡一高は全国大会で準決勝、準々決勝へ進出した競技歴を持っており、個人的には盛岡一高を出て芝浦工大を卒業、現在日本代表になっている北村尚英選手を生んでいる。最近は一般のレベルが沈滞ぎみであるが、本年度はレベルアップにつとめたい。そして来るべき41年度インターハイには万全を期し、各位のご来県を心からお待ちしたい。どうぞご協力とご指導をお願います。

ハンドボール「第22号目次」

表紙写真――日中親善試合第１戦・日本対広州戦から

初の中国遠征

日本 1勝8敗

実力高い中国チーム

中国遠征の日本ハンドボールチーム，高嶋冽団長（日本協会理事長，芝浦工大教授）ら1行17人は4月15日羽田発，3週間にわたって中国各地を転戦し，5月8日夜帰国した。日本チームの成績は別表のように1勝8敗の成績に終わった。中国ナショナル・チームは3月1日から約1カ月間強化合宿にはいり，日本チームとの親善試合に備えた。中国チームの実力はかなり高く，日本でもナショナル・チームの編成，定期的な強化合宿の必要が痛感された。（なお本号は第3戦まで、次号は第9戦まで掲載します）

日本、第1戦を失う

▽第1戦（4月18日午後8時、広州体育館、観衆六千）
▽レフェリー　王明亜

広州 29（13—8、16—11）19 日本

広州		得	得	日本	
GK	陳維政	0	0	福本	GK
FP	李志連	5	2	北村	FP
	楊霊藩	4	5	竹野	
	岳洪財	2	2	井上	
	袁志祥	1	1	東	
	鄧福宝	2	1	金田	
	劉延江	7	4	宮原	
	王洪橋	1	4	市原	
	卜憲章	6			
	徐国基	1			
	関香閣	0			
	王洪林	0			
	李宝栄	0			
7MT		(9) 29	19 (4)		7MT

〔2分間退場〕竹野、井上、李志連

よく走った宮原

〔評〕試合は前半20分で決まった。竹野が中央ポストプレーのカットインをはばもうとして2分間の退場を食った。このときのスコアは7—6と日本リード。この間に広州は劉の好シュートで8—7と逆転に成功、このあとは広州のペースとなってしまった。試合開始直後、広州のラインクロスから井上がうまく中央を割ってゲット、宮原、竹野も広州ディフェンスをまどわすシュートから好調なすべり出しを思わせた。しかし竹野退場のあと、無理なシュート、オーバーステップなどつまらぬミスで広州に立ち直るスキを与えた。その後もインターセプトから楽に得点させてしまった。

広州チームは平均身長177センチ。体格もよく、バスケットボールのキャリアも見られ、ハンドリング、パスとも一流。シュートのスピードは市原クラスだ。オフエンスのフォーメーションはポストのブロックプレーで執着力があり、ディフェンスをつけたままゴールに倒れ込むケースが多い。日本チームはこれに対して型で決めるケースが少なく、コンビはほとんど見られなかった。ナショナルチームとしては最低のできだろう。

ただ宮原が4点をあげ、しかもよく走った。逆襲の好機をよくつかんだが、いかんせん宮原のパスを受けようと走ってくる選手がひとりもいなかった。ここにも敗因がある。レフェリーは中国側だったが、正面からシューターがバックスに衝突してもチャージをとらない。判断の差だろうが、プレーヤーはレフェリーの判定基準を利用するプレーも考えたいものだ。審判技術はA級か。

日本、安徽を破る

▽第2戦（4月20日、午後7時30分、広州体育館）
▽レフェリー　岡村昭二

日本 30（13—10、17—10）20 安徽

安徽		得	得	日本	
GK	劉新民	0	0	福本	GK
GK	沈国華	0	0	島崎	GK
FP	王元祝	2	8	竹野	FP
	張漢忠	6	0	東	
	馬家琪	0	2	宮原	
	陳伝光	0	1	田口	
	鄧昭民	3	3	北村	
	張玉林	3	2	青木	
	陳観祥	2	6	井上	
	孫為重	0	6	市原	
	李本友	1	1	金田	
	年介勤	2	0	西村	
	程法瑛	1	1	森田	
7MT		(4) 20	30 (0)		7MT

〔2分間退場〕　青木、沈、程、

中国、サイド攻撃なし
断然光る宮原のプレー

〔評〕　前半開始直後、安徽は7MTから鄧が右に決めて先行、日本も青木が右からもぐり込んで1—1のタイ。このあと竹野がジャンプシュートを連続2本決め、前半16分までに市原の好シュートもあって9—5と差をつけた。これで日本は気分的に楽になり、ボールの離れもよくなっていちじはダブルスコアで試合を進める好調ぶり。これに対して安徽は張玉林、張漢忠がセットプレーから中央にはいって得点したが、単調な攻撃だつた。前試合の広州チームと比較すると、チーム力は半分以下。後半も安徽は張漢忠に打たせたが、もうひとつ切れ味がなく、強引なシュートを打っては日本チームに走られていた。日本は後半に若手を出したが、コンビはくずれがち。宮原が速攻をかけてもフォローするものがなく、中途はんぱな攻撃となってしまった。10分から15分まで無得点。安徽が試合のヤマをつかんでいたら、もつれていたことだろう。

広州、安徽の両チームと対戦したが、中国は強い。練習量が豊富とみえ、キャッチミス、パスミスがない。ポスト中央からのセットプレーが共通した攻め方で、バスケットボール出身者が多く、フェイントもうまい。ただ安徽チームは大学の二部クラス。日本の20失点は多すぎた感がある。ダブルスコアが順当なところだろう。

興味のあることは中国サイド攻撃をしない。中国のレフェリーは『サイドでの反則でも7MTを与えるのか』とわれわれに質問していたが、角度のない地点からは決してシュートしない。したがってディフェンスは甘い。日本チームとしては両サイドでゆさぶり、中央から打たせる攻撃をしたらおもしろいだろう。この試合も宮原の忠実なプレーが光っていた。

日本、史上最低の出来

▽第3戦（4月21日午後3時、広州体育館）

中国代表 26（13—8, 13—6）14 日本

中国		得
GK	陳維政	0
	李宝栄	0
FP	李志連	3
	楊霊藩	3
	岳洪財	1
	袁志祥	6
	王洪橋	1
	鄧福宝	3
	劉延江	4
	荊之藹	1
	朱重康	2
	卜憲章	2
	7MT	(3) 26

日本		得
GK	福本	0
FP	竹野	3
	東	0
	宮原	1
	北村	2
	青木	3
	井上	4
	金田	0
	市原	1
	7MT	(0) 14

〔2分間退場〕　竹野

〔評〕　日本は凡失が多く、12点差で完敗した。日本の選手は動きが鈍く、史上最低の出来。中国代表チームは、実は第1戦の広州チームと同じメンバーだった。中国が第1戦にかけた意気込みのほどが知れようというもの。この試合も楊、劉らがすばらしいシュートをみせた。前半43秒、日本は井上が倒れ込みシュートを決めたが、中国も楊、袁らがポストプレー、ミドルシュートを放って3点をリードした。このあと竹野、市原、北村がやゝ好運と思われるシュートを成功させ、いちじは6—5と1点差まで追いすがった。しかし日本はこのヤマ場をつかむことができず、14分から23分までの9分間ノーゴール。一方中国はこの間に5点をたたき出して試合を決めた。

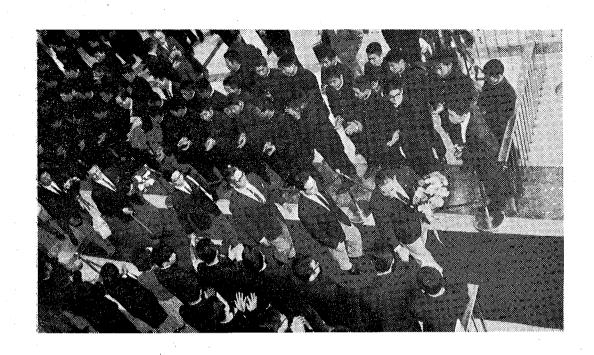
日本の試合ぶりはまずかった。市原はボールコントロールが悪く、竹野、井上は無理なシュートを放っては中国の速攻を許してしまった。しかもミスをしたプレーヤーはほとんど帰陣せず、その場に突っ立ったまま。北村もオーバーステップを数回繰り返して精彩がない。相手のミスをさそって速攻、シュートを失敗したり、カットされたらすぐディフェンスの隊型をつくるのはプレーヤーの常識。この基本をほとんどの選手が忘れている。これに対して中国は中央でのボディチェックぎみのセットプレーを忠実に繰りひろげて楽に試合を運んでいた。

確かに鄧、楊、袁、李志連の実力は世界のトップクラスといっていい。日本にとって勝てない相手ではない。この試合は、せめて3点ぐらいに食い止めてほしかった。試合後に中国側は、日本の角度のないところからのシュート、GK福本の判断の良さをほめていたが、これはりっぱな武器だ。試合運びにひとくふうほしいところだ。なお中国チームは3月1日から約1カ月間合宿したという。

▽宮原選手の話　中国は体力がある。バスケットボールの技術の中にソ連の技術を加えている。とても強い。

中国遠征成績

	場所	勝敗	スコア
4.18	広州	●	日本 19—29 広州
20	広州	○	日本 30—20 安徽
21	広州	●	日本 14—26 中国ナショナル
24	上海	●	日本 18—26 上海
25	上海	●	日本 14—26 中国
27	上海	●	日本 17—19 安徽
5. 2	北京	●	日本 16—22 中国
3	北京	●	日本 15—16 北京学生
5	北京	●	日本 12—19 上海

香港中国だより

▽**4月15日**　夜の香港は霧でした。予定より遅れて午後3時5分(日本時間)に香港・九龍市の啓徳空港に到着。中国旅行社の張明竹氏らの案内でネイザン通りのインペリアル・ホテルにはいった。午後6時から香港見物。夕食は香港島側のアバディーン水上レストラン〝タイパク〟でとりました。8時すぎとあって全員腹ペコ。大いに食べました。訪中新劇団の一行80人が同行しました。16日は午前7時40分出発。中国に向かいます。

▽**4月16日**　広州に着きました。バレボールの大松博文氏、新劇団員らと16日朝8時40分の汽車で九龍駅をたち、中国側を深圳にはいったのが同11時。ここで新劇団と別れ、大松氏らとともに迅速軟座車（急行1等車のこと）で広州に向かいました。3時間あまりで広州着。予定より1時間も早いのでみんなびっくり。国際見本市などの所用のため広州に来ていた西園寺公一氏、広州体育総会の盧副主席らが出迎えてくれた。

ホテルは〝愛群大厦〟バス付きツーイン。まもなく18日行なわれる試合の会場を見がてら、30分ほど汗を流しました。もっとも27度という気温なので、ちょっと動くだけで汗が出る。田口君は「ぬれたタオルが試合のときは必要だ」と話していた。午後7時からホテルのダイニングルームで夕食。盧主席が音頭をとって乾杯。食事はすこぶるよろしい。テンプラまである。

▽**田口選手の話**　予想していたとおり中国は強い。日本の選手はみんなすっ飛ばされ、チャージぎみのシュートです。中国の選手はバスケット出身者なのでチェストパス、ゴールへの突っ込みはすばらしく、コンビもいい。

▽**福本選手の話**　広州では1勝2敗でしたが、第1戦の広州チームは中国ナショナルチームです。中国のハンドボールは広州がいちばん発達しているところです。体力的に押しまくられた形。平均年齢25歳、身長178センチです。全員がバスケットボール出身者。技術的に見るとあまりうまくないが、力がある。フランスよりも少し落ちる。力の点ではフランスよりも上。

壮行会風景　上は羽田空港で

最下段は選手団を激励する式場会長

ハンドボール 日中交流を話し合う

北京で高嶋団長と中国側

（北京＝松尾特派員3日発）北京訪問中の日本ハンドボール協会高嶋理事長は日中間のスポーツ交流問題について5月3日、中国体育総会の張聯華秘書長と会談した。その結果、ハンドボールはことし日本チームが中国に来たので来年は中国の男女チームが日本を訪問することが決まった。

そのほか中国側から①スピード・スケートの相互交流には大賛成で、日本側から具体的な提案があればすぐにでも話を進めたい②サッカーは1966年に日本を中国に呼び、1967年には中国が日本へ行くことにしたい③バスケットはことしは中国が日本に行くことになっているが、日本側からまだなんの連絡もない。中国としてはできるだけ早く男女チームを日本へ派遣したい④体協役員の相互交流については、中国を訪問する日本側の役員にはぜひ大庭専務理事を加えてほしい、との意向の表明があった。

また高嶋氏が中国が国際ハンドボール連盟（スイス）に加盟するよう提案したのに対し、中国側は「加盟したいが、GANEFOと台湾に対する考えをたしかめたうえで考慮したい」と答えた。

（朝日新聞5月3日付け）

写真上は第1戦対広州戦での選手紹介
下は第1戦

◇　◇　◇　◇

日ソ交流 来年遠征

（モスクワ5月2日発＝共同）ブダペストで開かれる国際学生スポーツ連盟の会議に出席の途中、モスクワに立寄った北沢清日本ユニバシアード名誉主事は5月2日、ソ連スポーツ団体組織連合中央評議会幹部委員のホメンコフ、パルフェノフ両氏と3時間にわたって日ソ両国のスポーツ問題について会談し日ソのスポーツ交流について次のことが確認された。

バスケット（9月訪ソ、明年来日）▽近代五種、ハンドボール、レスリング（明年訪ソ、明後年来日）▽体操（10月来日、明年訪ソ、▽重量あげ（10月訪ソ、明年来日）サッカー（7月訪ソ、12月来日）▽陸上（7月訪ソ、10月来日）▽女子バレー（今年の来日と明年の訪ソを希望）▽スケート（アイスホッケー・コーチを希望のときにソ連から派遣）▽スキー（招待状が来れば訪日）

また日本がソ連極東地区選手と交歓競技を望むならば応諾の用意があることを表明した。

（朝日新聞5月4日付け）

高校チーム、沖縄へ遠征

那覇高校校門にはられた親善試合の横断幕

沖縄でハンドボールの普及、指導のため馬場太郎氏を団長とする日本高校ハンドボールチーム（徳山高校男女両チーム、熊本市立商高＝男子、熊本市立高＝女子）の一行は3月30日午前9時那覇入港の〝ひめゆり丸〟で沖縄入りした。沖縄には琉球大がハンドボールを行なっているだけで、中学、高校、一般、実業団にはまだ普及されていない。沖縄体協は内地の高校チームの沖縄遠征を機に、ハンドボールの普及にのり出した。一行は4月2日、3日の両日那覇高校、琉球大グラウンドで講習会、模範試合を行ない、4日午後5時那覇出港の〝ひめゆり丸〟で帰国した。

▽2日午後2時30分から那覇高校グラウンドで日琉親善大会が開かれた。仲田高体連会長のあいさつ、高校チームから記念品を、沖縄側からペナントを贈った。このあと女子の熊本市立高—徳山高、男子の徳山高—熊本市立商の模範試合、熊本市立商—琉大の親善試合が行なわれた。

「女子」

熊本市立 12（7—2 5—1）3 徳山高

徳山高 3（3—3 0—0）3 熊本市立

「親善試合」

熊本市商 11（7—4 4—3）7 琉球大

▽3日午後2時30分から琉球大体育館で模範試合、試合が行なわれた。

「女子」

徳山高 6（2—4 4—0）4 熊本市立

「男子」

熊本市商 8（5—5 3—2）7 徳山高

「親善試合」

徳山高 13（7—3 6—6）9 琉球大

国内大会参加へ

松本重雄（日本協会常務理事）

▽3月30日午前8時45分羽田発。ノースウェスト機上の私はのどかな春の海をぼんやりながめていた。きのうまでのパスポート許可待ちのあわただしさが、まるでウソのようだ。機は西日本の上空から雲海の上にある。ポツンと一つの機影をうつしながら、なにごともなく11時20分、那覇空港に着いた。出迎えのないのは、連絡不備のためと承知のうえ。一人旅の楽しさを味わいながらも少々心配であった。案の定、第一関門の検疫で、種痘のやりなおしを形式的にやらされたときは一瞬、ぎょっとした。つまり、羽田で検疫証明書に押印を忘れられたらしい……。那覇市中心街の日本ホテルに着くと、きのう（29日）鹿児島を海路出発した選手団（徳山高校男女、熊本市立商高、熊本市立高）が、けさ到着したとのこと。宿にいるはずの馬場団長は港まで出迎えに行き、全員は市内を回っているとか。いまさらあわてても……と思い、昼寝をきめこんで待つことにした。ラジオから聞こえるエキゾチックと哀愁とに満ちた沖縄民謡のリズムが、いつしか私を心地よい仮眠に誘っていった。おそらく『沖縄に着いたんだ』という安心感がいっそう私を夢心地にさせたのであろう。快晴の那覇は半袖でとび歩きたくなるような陽気だ。全員顔合わせのうえ、選手団はさっそく那覇高校で練習にはいった。馬場団長と私は地元関係者と、それぞれの関係諸官公署ならびに後援団体、新聞社などにあいさつに行った。

▽31日午前雨のため午後の晴れ間を利用して南部戦跡を見学。あの激しい太平洋戦争が静かな自然美を誇るこの島に、いまなお悲惨なツメあとをそこここに残している。心なしかバスガイドに涙のひたたりを認め、声のしめりがちなのに胸をしめつけられる思いがした。選手団一同は健児の塔、ひめゆりの塔、各県慰霊塔に花束を捧げ、地下に眠る霊に黙禱。市内観光から、中部コザ市に足を伸ばす。まるで西部劇を思い起こさせる。これらの実情や、あらゆる施設に、若い選手団が、なにを感じ、なにを思うか。年代ははなれても、それぞれの心に去来するも

のを、すなおに口に出して話し合うことが恐しく思われるような、複雑な気持ちがいっぱい。ともあれ、現状を目のあたりに見たことが、彼らにとってなにものかプラスされることを願っている。

▽4月1日午後、那覇高校生徒会の歓迎会が行なわれた。地元生徒たちによるカラ手の実演、沖縄舞踊を見せてくれた。その合い間に選手団の校歌合唱や、おてもやん。そして『徳山古狸おどり』などを交歓。次代をになうエネルギーの発散が、友情を通じてこんな形であらわされることが、いまいちばんの幸せではなかろうかと思った。チューウガラビラ（こんにちは—）、ワンネ（私）ウンジュ（あなた）イッペ（たいへん）カナサシクミソーレヨ（愛してる）。こんな琉球原語もこのとき教わったのかな?。（閑話休題）

▽4月2日—3日那覇高校グラウンド、琉球大学体育館で模範試合、親善試合。成績は別項のようであった。

沖縄のハンドボール現状は3年前、式場会長から体協関係者に紹介、最近は沖縄高体連関係の方々に、馬場団長から今回遠征の話を通していただいたばかりである。したがってなじみの薄いハンドボールをこの機会に根をつけ、育ってもらうことが目的であった。試合結果をうんぬんするよりも、協会設立と近くは本年度インターハイ（熊本市）の参加に手を加えることをじかに話し合った。ハンドボールのよさを選手団によく見ていただくためであったのだ。技術的にはバスケットボール選手が主体である。これが日本協会の本年度重点施策である沖縄開発の一助となることを心から願った。

花開く日琉親善

北川　浩（熊本市立高校監督）

民謡の島、ドルの島、基地の島、悲しい戦争の思い出を持つ島。私たちハンドボールチームはこの島が将来『ハンドボールの島』といわれるようになる日を夢見ながら船のタラップを降りて行った。出迎えの高体連旗の前に整列した高体連会長、理事長、高校生の数はお世辞にも盛大な歓迎とはいえなかったが、その目には本土の高校生を迎えた喜びの涙が光っていた。そして6日間の沖縄滞在後、この島に別れを告げ、船と島とが互いに見えなくなるまで私たちはハンドボール普及のために努力し合う約束をした。別れにさいしては肉身と引き離されるような寂しさを体験した。私はかつて『東西の壁』によってドイツの同胞が別々になっているベルリンで、ドイツ国民に対して同情と激励の情を深く感じた。それを思い出したとき、占領下の生活にあえぐわが沖縄同胞の姿に強い憤おりを感じた。

島の南部にある大平洋戦争最後の激戦地—沖縄の人々が日本民族の最前線に立って、米国の日本本土への侵攻を一日でも遅らせようと決死の戦いをいどんだ。20万人の血が流れた尊い犠牲の地であり、私たちはそこを歩くことすら申しわけないような気持ちになった。占領下、本土より遠く離れ、戦争の痛手も深い。この沖縄はいろいろな面で立ち遅れ、本土からの援助を待っている。今回日本ハンドボール協会が沖縄親善の行事を計画をされたことは、沖縄スポーツ振興のために非常に意義があった。

この6日間は馬場先生、松本先生はじめ選手一人一人がハンドボールを生む苦しみを味わった。役員諸氏は政府、体協、報道関係者へのPR、受講者への指導、選手はなんの用意もない運動場で土をならし、石を拾う。ゴールを運び、ラインを引く。コート作りから、ゲームまでを見せた。そして選手はハンドボールの初歩から練習した。会場は日琉親善の花が咲

遠征メンバー

徳山高

男子	女子
大空清三	鈴木涼子
山根満夫	近森孝枝
林　寛	石田玲子
横瀬正寿	山本ふみ枝
長広　勲	宇多洋子
田中敬三	高杉あつ子
青木異志	松本博子
野村　要	立石妙子
住田宗士	時安生子
中野正二	高松逸子
奥　博史	神原美智子
関　英夫	深尾ヒロ子

熊本市商高	熊本市立高
松本正弘	鹿子木智子
田上豊生	久原喜久子
牧本信義	岡本昭子
赤尾　茂	福間道子
井上亨二	島本恵美子
鈴木唯夫	米　悦子
石本政敏	宮本知子
井手久男	川喜多文子
清水邦夫	梶原千枝子
伊藤義人	
室岡俊雄	
榊　良徳	

熊本市立高—徳山高の女子模範試合（那覇高校グラウンドにて）

き、ハンドボールの学園のようであった。勝負の場と異った親善スポーツにおける人間関係の有意義なことを味わった。これは参加者にとって一生の思い出となるだろう。帰りは『波浪注意報』の出た海は荒れ、船の甲板を波が洗い立って歩くこともできなかった。食事もできず、二等船室に横たわって船酔いの苦しみに耐えた。われわれは大いなる使命を果たして、いま帰るのだという満足感でいっぱいだった。

実結ぶ一粒の種

津田　修
（熊本市立商高監督）

沖縄―それは紺ぺきの空。海の国。武士を尊ぶ国。空手の国。そして20年前に本土防衛最後のとりでとして、ひめゆり、健児の両塔で象徴されるように、最大の犠牲をはらい祖国のため一致協力して戦った国。そんな印象を持つて沖縄へ向かった。3月30日午前9時に那覇港に入港した。埠頭には沖縄高体連の旗を持った生徒諸君を発見したとき、なぜパスポートが必要なのか。またなぜ日本円が使えないのか。なんとも不思議で納得できない気持ちになってしまった。接岸した船のサロンで、先発の馬場先生をはじめ沖縄高体連会長仲田先生、志村高体連理事長とはお会いし、日程その他の打ち合わせをすませた。税関の手続を終わって那覇高校生の演奏するブラスバンドのマーチに迎えられて上陸。高体連差し回しのバスで泊港、国際通り、政府前を経て宿舎日本ホテルに到着した。昼食に沖縄料理が出て異国情緒を味わう。

3時に那覇高校グラウンドで沖縄スポーツ史上初のハンドボールの練習を行なった。いかにはサンゴ礁の島を感じさせるグラウンドには、バレーコート、テニスコート、バスケットコートが一面ずつ。サッカーゴール一台、野球場とスタンド、拳闘部室(空手か)、柔道部室があり、子供たちがたくさん遊んでいる。しかし大切なハンドボールのゴールがない。一応覚悟したはしていたが、ちょっと気落ちした。話によると琉球大学に一面ゴールがあるとのこと。だが間に合わないので基本練習を行なう。生徒たちの声が曇った沖縄の空に突き刺さるようだ。子供たちが見ているなかで約2時間半の練習をやった。

31日南部戦跡を回り、中部地区の観光。祖国のために散った健児、乙女たちの遺跡を見た。ちょうど同年輩ぐらいの生徒たちはなにを感じたことか。4月1日りっぱな設備を持つ琉球大学体育館で練習、久しぶりに徳山高校と試合を行なう。午後は那覇高校生徒会主催の歓迎にに出席、お互いにお国じまんを出し合った。4月2日、3日は那覇高校、琉球大学で日琉親善試合および指導者講習会が行なわれた。受講者（中、高校の先生）や新しくチームを作った琉球大の選手たちの熱心なこと。4月4日関係者多数に送られて那覇を立つ。私たちが沖縄にまいたハンドボールの一粒の種、いつの日かきっと花が咲き見事な実が結ばれるだろう。

写真（上）沖縄の娘さんと記念撮影の熊本市立高の選手（中）ひめゆりの塔に参拝する選手団（下）琉球大体育館での親善試合

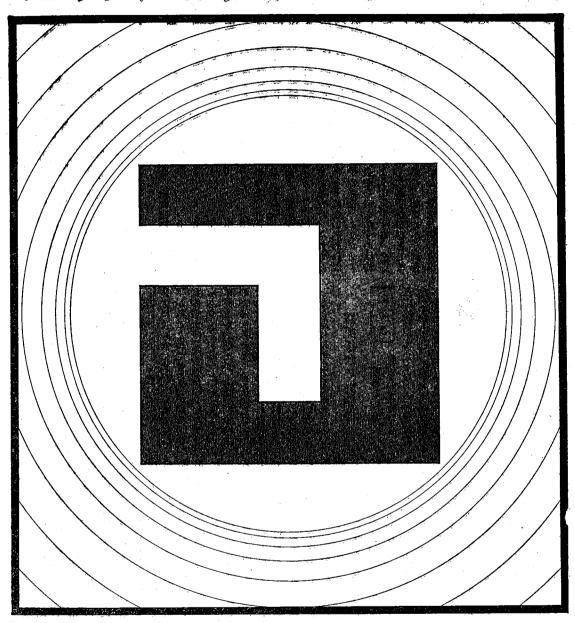
こぼれ……話

沖縄に居た神山選手

昭和31年の国体高校女子の部で優勝した熊本市立高校の神山ミエ子さんが那覇市に住んでいる。恩師の北川浩先生がくるということを新聞で知り、一日千秋の思いで待っていたという。北川先生の姿を見ると喜びのあまり飛びついていった。翌日から後輩と一緒に練習し、高校当時の元気を取り戻した。彼女は『沖縄のチームをつれてことし熊本で開かれるインターハイに出場し、熊本市立高校に勝って北川先生に恩返しをしたい』と張り切っていた。帰りに彼女は沖縄の踊りに使うりっぱな花笠を母校に贈った。

篠原さんも沖縄へ

熊本市立高校の篠原郁代先生（体育）は沖縄遠征に同行した。父が戦死した沖縄へ……。父の顔も知らない篠原さんにとっては沖縄の土は父の肌である。沖縄に着いた篠原さんの心はいかばかりであったろう。わが子の成長した姿を見のお父さんもさぞ喜んでおられたことだろう。篠原さんは熊本県豊川中学時代からハンドボールを始め、熊本市立高校がインターハイで三年連続優勝したときの選手。日体大出身。

世界に誇るこのマーク

あなたの工場を合理化する
工業用ミシン．プレス．縫製附帯設備．電子機器
あなたのご家庭を設計する
家庭用ミシン．編機．電気掃除機．冷蔵庫

東京重機工業株式会社

1965年の展望（下）

東海・九州勢の対決（高校男子）

女子は静岡城北・栃木女の争いか

杉山茂

女子（つづき）

波乱期待の新星チーム

5強に続くグループもやはり主力は実業団なってしまう。なかでも昨年デビューしたロンド工業（茨城）、揖斐川電工（岐阜）はダークホース的な存在。ロンドには水海道二高出でメンバーを固めており、まとまりのある攻守が特色。揖斐川電工は国体開催地でもあり、峯岸氏（芝浦工大出）を監督に迎えて意欲的なので期待できる。この両チームは調子の波に乗れば5強といえども楽観できない。このほかAクラスと見られるのはレナウン大阪、東京重機（神奈川）、新加入の三菱鉛筆（東）の実業団勢。

クラブチームは男子よりもさらに上位進出の余地を失ってしまっている。

最近5年間の全国大会におけるクラブチームのベスト8進出を数字で調べてみよう。

	総合	総合室内	国体
35年度	3	3	6
36年度	3	2	5
37年度	1	1	5
38年度	0	0	2
39年度	0	0	2

ということになる。今年もわずかに涌谷高OG（宮城）、寝屋川ク（大阪）、尼崎ク（兵庫）、明善ク（福岡）、徳山ク（山口）の試合ぶりが注目されるだけ。それも全国大会のベスト8に食い込めれば上出来。女子の場合、クラブチームが全国大会から姿を消すのは時間の問題のような気がする。全国高校で活躍した選手がOGとして元気な姿を見せ、なごやかな試合を展開していた情景など望む方が無理なのだろうか。

話題に乏しい女子学生

女子学生界は一向に発展しない。『高女時代』『師範時代』の活動や伝統は昔話に終わってしまっている。唯一の活動を続ける関東学生リーグも話題に乏しい。常勝日体大に東京女体大がどこまで食い下がることができるかが興味。日女体短大は「短大」というハンディもあり、今年も苦しいだろう。実力に向上も大切だが、実施校の増加の本腰を入れるべきだ。当分の間、それは関東学連に課せられた義務である。せっかく活動を続けている中京大（東海）に、これまで一度も交流の誘いをかけていないことなど関係者の誠意も疑われる。

高校界

意気揚がる九州勢

開幕と同時に代表校の沖縄行き、夏には昨年中止となった韓国遠征（男子第2回、女子初）が実施される予定であり、各チームの励みとなっている。加盟チームもシーズンごとに増え、39年度登録チームは男女合計約700。愛知66、大阪56、東京51（いずれも男女計）と50を越す地区が遂に実現した。800チーム達成の日も近く、不可能とまでいわれた1、000チーム突破も夢物語でなくなった。それだけに全国高校選手権、国体への道はけわしい。加盟校の増加と、予選の激しさは正比例して上がるばかり。7人制全面的採用が決まった一昨年、稲石三二氏（桜台高部長）は『これからは全国大会に連続出場するのはむずかしくなる。まして連続優勝などは考えられない』と話していたが、昨年の全国高校選手権でも新進校の台頭が目だち、期せずして男女とも初優勝（明星、栃木女）に終わっている。

シーズン開幕を前に群雄割拠する高校界の状勢を展望するのはむずかしいが、関係者が高く評価しているのは九州勢である。全国高校選手権が熊本市で開かれる関係もあって九州各校は今年を目標に腕を磨いている。男子の熊本市商、鹿児島工、小倉工（福岡）、大分商、女子の熊本市立、菊池農（熊本）、明善（福岡）、大分東などは有力。九州学院、天草（男・以上熊本）、臼杵（女・大分）など新進校の意気も大いに揚がっており、過去8たび（男子国体1、女子全国高校4、国体3）関門海峡を渡った全国タイトルの記録がいくつまで伸びるか、今年の話題の一つである。

巻き返しねらう東海勢

男子では昨年愛知県勢の5連勝がストップされたが、それだけに

その巻き返しは見もの。桜台は伝統の速攻にセット・オフェンスをまじえ、緩急両面を練習している。同校は今年は予選から出場。中京商、名城大附属などとシノギをけずる。予選でこれほど強者が集まる地区も珍しく、どこが選ばれても実力は買える。また、国体を控えた岐阜は加納、岐阜西工などがダークホース。清水商（静岡）も名門らしい実力を備えており、高校男子の王座争いは九州勢と東海の対決が焦点。

しかし2連勝をねらう明星（東京）とそのライバル神代（東京）。仙台一（宮城）、浦和市立（埼玉）の東日本勢。伝統の大阪、兵庫地区で前評判の高い三国丘、佐野工、兵庫工、明石。それに伏見工（京都）、修道（広島）新居浜工（愛媛）を始めとする四国勢など西日本の強豪もいるので余断は許せない。また毎年話題となる新進校では名城大附属（愛知）と枚方（大阪）が注目される。

健在の名門、古豪

一方女子は前記九州地区以外から強者をさがすと、昨年の実績からみて栃木女と静岡城北。栃木女はエース田辺卒業のアナをどう埋めるかがカギ。静岡城北は再び全国高校、国体のダブル・クラウンをねらっており、望月監督は攻撃力にはかなり自信を持っている。ダークホースは涌谷（宮城）、秋田和洋女の東北勢と県立尼崎（兵庫）。このほか水海道二（茨城）、半田（愛知）、京都女、寝屋川（大阪）、山陽女（広島）、徳山（山口）といった古豪、名門。新鋭チームは小諸（長野）、加納（岐阜）和歌山商、吉原（静岡）、生駒（奈良）など、

高校界はいまから夏までが勝負どころ。この期間に力を伸ばすチームが多い。次代をになうホープたちがテクニックのみに走ることなく、基礎体力、基礎技術をみっちり身につけ、若さにあふれた試合を展開してほしいものだ。

自衛隊

伸び悩みいとったら関係者にしかられるだろうか。全般的なレベルはシーズンごとに上がっているが、勤務の関係その他でかなりの制約をうけるのがハンディになっている。学生チームなどが積極的に交流すべきである。

◇　◇　◇

東西対抗は9月19日

東海学生連盟主管の第15回全日本学生選抜東西対抗は9月19日名古屋市の愛知県体育館で行なわれることになった。日本協会の日程では9月5日名古屋市の金山体育館となっているが、西独チームの来日中止で変更となったもの。

球界パトロール

中学生が山口社長宅で合宿

（熊本）

熊本県はハンドボールの熱心な点では西日本NO・1。先日所用で福岡―熊本―大阪―愛知をたった一日半で回ったときに取材した話。まず熊本の話から…。4月上旬に熊本県八代郡の氷川中学校の女子チームの岡川先生（女）が大洋デパートを訪れ「大洋チームと合宿したい」と言ってきた。この話を受けた同デパートの山内人事課長は即座にポンと胸をたたき「よろしい。引き受けました」。さてどこへ泊めさせようかと考えたすえ、山口亀鶴社長の家。大洋デパートの井監督を呼んで「社長の家に合宿させるから…」と人事課長命令。山内課長は氷川中学の岡川先生の熱意に感心したのが動機。もちろん山口社長のOKは取っていない。喜んだのは女子中学生。社長宅で伸び伸びと合宿。豪華な大邸宅を自分のようにとび歩いていていた。山口社長はこの女子中学生チームの来襲にも少しも驚かない。

中学生の合宿が無事終わってからの後日譚―山内課長が恐る恐る山口社長に「先日は女子中学生チームがお邪魔して…」と言ったら山口社長いわく。『そういえばオカッパ頭の女の子が10人たらず家にきていた。あれはハンドボールの選手だったのか。とてもかわいかった。それに元気いっぱい。チームが強くなるにはスタミナをつけなくてはいけない。それで家内に命じてウマイもの、愛情のある食べものをたくさん食べさせるように言っておいた。栄養をつけないとだめだからなー。家の中をとび回っていたが、少しもうるさくなかったよ。若い人たちはいいね』。これをきいて人事課長さんはホッと胸をなでおろし、「どうもありがとうございました」。このあと山内課長さんはしみじみと語りました。

『社長はなにも不平ひとつ言わず、ハンドボールのため〃やってくださった。ほんとうにありがたいことです。社長の顔を真っ正面から見られませんよ。こっちがなにも言わなくても、すべてをご承知しているのですから…。ただ頭が下がります』。

◇　◇　◇

関東学生連盟新役員

▽会　長　棚橋義輝（中大教授）
▽理事長　荒川清美（日体大出）
▽審判長　中沢重夫（芝浦工大出）
▷委員長　山本敏幸（日体大）

アンケート（下）

（1）ことしの目標
（2）どこを強化するか
（3）新メンバー

大崎男女 4大タイトルの獲得

実業団男子

▽大崎電気（埼玉）
（1）4大タイトル獲得
（2）若手の育成の第一歩としてディフェンスの強化

GK福本　弘
下里　敏彦
FP竹野　奉昭
北村　尚英
小谷内正信
井上　素行
市原　則之
西村　功
金田　純男
餅原　正脩
坂野　進
宮原　宏
宮田清次郎
田口　侑義
宮原藤支男

▽宗形製作所（大阪）
（1）国体上位入賞、実業団優勝
（2）すべての面を強化

GK鷹見　陽平
谷　義信
FP川辺　俊晴
越智　節生
久保　勤
中村　憲彦
多久　毅
栗沢　清次
塩見　敏彦
好田　吉次
兵頭　勝
坂本　雅孝
五味　忠義
中林　政憲
辻　忠俊
谷口　良一
平野　正章

▽第32普通科連隊（東京）
（1）実業団ベスト4進出と人間性の養成
（2）ディフェンス

GK八木原正弘
江幡　正幸
FP仲田　文男
芳村　輝光
山下　岸夫
熊谷　正男
本田　勝行
志村豊次郎
西　幹応
佐藤　憲
阿部　秀雄
岡崎　次男
河内　九郎

▽日本鋼管（神奈川）
（1）打倒〝大崎電気〟
（2）バックのコンビネーションの強化、逆速攻の防止、パスワークの習得

GK湯原　惇
岡部　正文
FP松村　豪夫
中村　幸夫
林　郁夫
黒田　台
石田三喜男
小林　喜治
本田　幸男
小島　督史
伊藤　秀嗣
安田　喜治
青木　茂

▽常盤工業（岐阜）
（1）国体優勝
（2）すべての面を強化

GK山内　省示
渡辺　武
FP片岡紀久夫
大野　金明
都築　勝
永富　康弘
赤堀　努
今井　守彦
早見　賢造
土橋　泰
高橋　勲

実業団女子

▽大崎電気（埼玉）
（1）4大タイトル獲得
（2）走ること、ディフェンス、若手の育成。

GK古谷　芳枝
川崎　幸子
FP宇井　敬子
伊藤せつ子
笠原喜代子
黒川　泰恵
早川　清美
鈴木　功子
永井　昭子
小笠原英佐子
加藤　井子

▽大洋デパート
（1）夏の全日本総合で優勝。
（2）ロングシューターの強化およびディフェンス

GK山口　律子
小原　名苗
FP久連松美和子
西村八千代
高山ヤヨイ
中村千恵子
新保　郁子
枝尾　清女
隈　茂子
今村マスエ
鐘ヶ江篤子
稲田　光代
射場美穂子

▽揖斐川電工（岐阜）
（1）国体で優勝したい。
（2）すべての面を強化

GK田中智恵子
FP細川　和子
若園　成子
渡辺きみえ
久保田千恵
高岡　弘子
赤塚たず子
山田　静子
赤塚ふさ子

▽田村紡績（三重）
（1）全日本で優勝すること。
（2）なし

GK渡辺美智子
坂上　直子
FP種村　好子
川口　清子
小谷　秀子
小林　五子
内藤志律子
渡辺　好子
清水　一子
渡辺　信子
信藤　栄子
篠笹　豊美

▽三菱鉛筆（山形）
（1）4月に結成したばかりで無我夢中。
（2）第1歩からやる。

GK林　美佐子
FP三井田梅枝
江川ミサ子
蓮見二三恵
鈴木ミヨシ
萩原　文枝
佐々木房子
佐々木洋子
藤盛千恵子
木村　涼子
阿部　幸枝

全国優勝目標の清水市商、桜台

高校男子

▽室蘭商高（北海道）
（1）北海道大会で優勝。
（2）ディフェンス。

GK門間　良伸　3年
FP福田　米吉　3年
二川　敏文　3年
細川　正義　3年
岩倉　俊光　3年
柴田　政道　3年
日向野秀彰　2年
高谷　良光　2年
塚見　純一　2年
桧山　博明　2年
柴口　英二　2年

▽寒河江高（山形）
（1）全国高校大会出場。
（2）ディフェンス。

GK鈴木　潔　3年
渡辺　茂美　2年
FP佐藤　繁雄　3年
岩崎　雄策　3年
阿部　美男　3年
松田　一夫　2年
奥山　正樹　2年
鈴木　福好　2年
犬飼　作次　2年
高橋　堅一　2年

▽福島高（福島）
（1）県大会、東北大会優勝
（2）バックの強化。全体的に力をつける。とくに走り。

GK尾形　和憲　2年
緑川　智司　2年
FP広瀬　俊昭　2年
菱沼　一良　2年
後藤　義信　1年
羽田　則男　1年
朽木　邦夫　1年
深田　和秀　1年
熊坂　英二　2年
佐々木和則　1年
斎藤　力　1年
河田　文夫　2年
佐藤　暁　2年

▽麻生高（茨城）
（1）全国高校、関東高校大会で上位入賞。
（2）チームワーク。ロングシュートに力を入れる

GK高橋　一夫　3年
久米田整太郎　2年
FP大川　洋司　3年
阿部　託也　3年
立花　洋治　3年
寺崎　叔男　2年
今井　政美　2年
中村　孝　2年
永作　孝雄　2年
鈴木　一直　2年
山本　譲　2年
青木　哲二　2年
関戸　均　2年

▽明星高（東京）
（1）全国高校大会、国体入賞
（2）ディフェンスおよびサイド攻撃。

GK清水　則夫　3年
中島　清　1年
FP鈴木　幸男　3年
宇佐美　宏　3年
勝島　良雄　3年
後藤　紀一　3年
木全　薫　2年
田中　洋光　2年
今井　一男　2年
高橋　育久　2年
田中　孝雄　2年
須藤　芳正　2年
荻島　哲治　2年

▽神代高（東京）
（1）全国 高校 大会 上位入賞

（2）下半身の強化。

ＧＫ藤森　憲一　3年
　　木村　幸雄　2年
ＦＰ伊東　信久　3年
　　田中　幸雄　3年
　　橋本　　昇　3年
　　石原　基一　3年
　　倉前　敏雄　3年
　　西田　正美　2年
　　西村　七朗　2年
　　石井　寿雄　2年

▽富岡高（群馬）

（1）全国高校大会出場。

（2）走り、ＧＫの強化

ＧＫ佐藤　治男　2年
　　唐橋　公男　2年
ＦＰ出川　昌利　3年
　　池田　　速　3年
　　田中　一敏　3年
　　阿久江憲司　3年
　　斎藤　光男　2年
　　茂木　信明　2年
　　飯野　鉄夫　2年
　　秋本　和夫　2年
　　今井　健二　2年
　　森　　重信　2年
　　須田　恒雄　2年

▽四日市工高（三重）

（1）東海四県のレベルに近づくこと。

（2）ディフェンス、速攻。

ＧＫ森谷　憲弘　3年
　　伊藤　良一　2年
ＦＰ栗山　浩二　3年
　　出丸　真喜　3年
　　加藤　信彦　3年
　　小崎　秀秋　3年
　　野呂　義房　3年
　　大矢知良介　2年
　　森　　勝喜　2年
　　田島　典行　2年
　　加藤　久男　2年
　　伊藤　正起　2年
　　小長井敏且　2年

▽愛知工高（愛知）

（1）（2）とくになし

ＧＫ永井　秀和　2年
　　栗本　真治　2年
ＦＰ諏訪部義幸　3年
　　鈴木　善士　2年
　　木村　和義　2年
　　田中　喜米　3年
　　松尾　　勉　3年
　　前田　　博　2年
　　伊藤二三男　2年
　　山路　孝夫　2年
　　正村　敏雄　3年
　　増山　敏博　2年
　　加藤　幸生　2年

▽清水市立商高（静岡）

（1）全国高校大会優勝。

（2）サイドからの倒れ込み。

ＧＫ入沢　　寿　3年
　　望月　雄司　2年
ＦＰ芦沢　一信　3年
　　大石　正則　3年
　　長島　正典　3年
　　杉山　靖治　3年
　　服部　勝男　3年
　　三ッ井一広　2年
　　片瀬　育男　2年
　　風間　孝夫　2年
　　内田　達男　2年
　　大石　孝幸　2年
　　滝戸　　武　2年

▽氷見高（富山）

（1）全国高校大会上位進出。

ＧＫ中山　重一　1年
ＦＰ平瀬　元宣　2年
　　関　　勝之　2年
　　森　　重松　2年
　　宝住　文雄　2年
　　高橋　善治　2年
　　三国　　優　2年
　　園　　元秀　1年
　　小菅　　保　1年

▽桜台高（愛知）

（1）全国高校大会優勝。

（2）ディフェンス。

ＧＫ杉山　久夫　2年
ＦＰ高鍬　義人　3年
　　大矢　信治　3年
　　小島　武司　3年
　　高橋　　実　3年
　　浅野　鉦世　3年
　　高橋公比古　3年
　　目下　正夫　3年
　　金森　早実　3年

▽上田高（長野）

（1）全国高校、国体出場。

（2）ＦＰの走力の強化。ディフェンスの充実。

ＧＫ有川　　格　3年
ＦＰ手島　万明　3年
　　市村　　裕　3年
　　野田　将弘　3年
　　藤森　　薫　2年
　　関森　寿一　2年
　　高橋　芳武　2年
　　武井　幸穂　2年
　　柏木　保衛　2年
　　赤沼　正志　2年

▽寝屋川高（大阪）

（1）全国高校大会ベスト4。

（2）ロングシュート。

ＧＫ頼　　明寿　3年
ＦＰ木村　慶次　3年
　　赤井　文明　2年
　　松田　茂樹　3年
　　赤松　一男　2年
　　中村　　務　3年
　　古堅　克己　2年
　　流川　　光　3年
　　吉田　裕紀　2年

▽県立和歌山商高（和歌山）

（1）近畿高校大会で優勝。

（2）ポストプレーの完成。

ＧＫ宮本　清己　3年
　　堀江　　覚　2年
ＦＰ山下　　宏　3年
　　高川　英明　3年
　　松本　正男　3年
　　富田　信也　3年
　　堤本　知秀　3年
　　森下　義夫　3年
　　佐古　疆義　3年
　　楠木　静吉　2年
　　楠見　　勝　2年
　　加納　一夫　2年
　　矢田部　守　2年

△伏見工高（京都）

（1）近畿高校大会優勝、全国高校大会でベスト4。

（2）ＧＫ、ディフェンスの強化。そして速攻のチームにする。

ＧＫ斎藤　義継　3年
ＦＰ今井　　正　3年
　　坂元　憲一　3年
　　桐　　健一　3年
　　立入　　勉　3年
　　山本　修二　3年
　　中井　武三　2年
　　林　　　　　2年
　　田中　　　　2年
　　小西　　　　2年
　　石徳　博行　2年
　　安井　健次　2年

▽修道高（広島）

（1）全国高校大会で3位。

（2）夏バテしないためにスタミナをつける。

ＧＫ山本　　一　2年
ＦＰ山本　政生　3年
　　木下　泰充　3年
　　川上　憲太　3年
　　香川　清治　3年
　　堀口　仁志　2年
　　川本　定則　2年
　　嶋田　　昭　2年
　　河本　英壮　2年
　　石井　清治　1年
　　大石　順一　1年
　　藤田　薫久　1年

▽新居浜工高（愛媛）

（1）走るチームにする。全国高校大会、国体出場。

（2）最後までがんばる精神力。

ＧＫ田頭　定行　2年
　　河野　　茂　1年
ＦＰ曽我部　正　2年
　　横内　　勝　2年
　　桑山　道法　2年
　　池田　秀信　2年
　　塩崎　信治　2年
　　加藤　建文　2年
　　白石　貴義　1年
　　越智　保二　1年
　　守谷喜代則　1年
　　南　　恭司　1年
　　明星　節夫　1年

▽松江工高（島根）

（1）組織的な動き。プレーを自分のものにするようにしたい。

（2）機敏性、基礎体力をつける。

ＧＫ福田　　圭　3年
　　古山　　茂　2年
ＦＰ青戸　克好　3年
　　田島　延洋　3年
　　景山　宏俊　3年
　　安達　　朗　3年
　　長府　義人　3年
　　大新　礼典　3年
　　糸川　　薫　3年
　　斎藤　一男　3年
　　安達　　譲　2年
　　玉谷　静雄　2年
　　村上　良夫　2年

▽博多工高（福岡）

（1）基礎体力の強化。

（2）走力、スピード。

ＧＫ小牟礼昭雄　2年
　　田中　公訓　2年
ＦＰ谷口　敏夫　3年
　　松浦　　節　3年
　　橋崎　茂春　2年
　　東野　照夫　2年
　　日高　光彰　2年
　　中口　　保　2年
　　藤本　　茂　2年
　　坂原　　健　2年

静岡城北、菊池農は 全国高校、国体ねらう

高校女子

▽秋田和洋女高（秋田）

（1）全国高校、国体で3位。

（2）動作を機敏にする。

ＧＫ水沢由紀子　3年
　　佐々木澄子　2年
ＦＰ小玉　邦子　3年
　　落合千鶴子　3年
　　加賀谷律子　3年
　　山本タマ子　3年
　　佐々木真砂子　3年
　　川尻　照子　3年
　　根　アキ子　2年
　　阿部ヒナ子　2年
　　門間　孝子　2年
　　武田　繁子　2年
　　淡路　厚子　2年

▽小高農高（福島）

（1）東北高校大会、全国高校

大会で上位進出。
(2) ロングシュート、ディフェンスの強化。

GK 吉岡　裕子 3年
　 木幡　光枝 2年
FP 宮崎キヨ子 3年
　 永岡　敏子 3年
　 杉　ミサ子 3年
　 木幡　和子 3年
　 高橋チイ子 3年
　 渡部サト子 3年
　 村田　優子 2年
　 芝花ゆり子 2年
　 桑原セイ子 2年
　 渡辺　重子 2年
　 村田　衣子 2年

▽栃木女高（栃木）

(1) 国体、全国高校大会で上位進出。
(2) ディフェンスおよびフットワーク。

GK 小川　恵子 3年
　 綱川千枝子 3年
FP 金子　久代 3年
　 片庭　トク 3年
　 柴田登美子 3年
　 森川美津子 2年
　 柏崎　好枝 2年
　 古橋カズ子 2年
　 赤塚佐知子 2年
　 富田シヅ子 2年
　 村井サト子 2年

▽前橋市立女高（群馬）

(1) 全国高校大会ベスト8、関東高校大会ベスト4、
(2) ロングシューターの養成。ディフェンスからオフェンスへの切り替え。

GK 吉田　芳枝 3年
FP 今井　紘子 3年
　 遠藤　文子 3年
　 閑野テル子 3年
　 入沢　広子 3年
　 青木タチ子 3年
　 石原　涼子 2年
　 中島　孝子 2年
　 茂木　京子 2年
　 秋庭よしえ 2年
　 小野沢美幸 2年

▽菊華高（東京）

(1) 全国高校大会出場。
(2) 守備を固める。

GK 柳　京子 2年
FP 山本　明美 3年
　 上田　悦子 3年
　 安倍登美子 3年
　 水野　和子 3年
　 鍛治谷孝子 3年
　 黒崎　秀子 2年
　 中村　政子 2年
　 芦谷　待子 2年
　 古川　文子 2年

▽川崎市立高（神奈川）

(1) 全国高校大会出場。
(2) 守備を固める。基礎体力、基礎技術の練成。

GK 龍野美世子 3年
　 石黒　俊子 2年
FP 篠崎　節子 3年
　 今井　順子 3年
　 高坂　啓子 3年
　 清山　敬子 3年
　 大野　典子 2年
　 峰崎　典子 2年
　 鳥養　国子 2年
　 瀬戸　幸子 2年
　 鳥養　雅代 2年

▽静岡城北高（静岡）

(1) 全国高校、国体で優勝。
(2) 基礎体力をつける。

GK 山田いづみ 3年
FP 小林八重子 3年
　 堀　妙子 3年
　 太田嘉代子 3年
　 黒柳みどり 3年
　 石上　茂子 2年
　 山田　和子 2年
　 鈴木すみ江 2年
　 久保田法子 2年
　 西川あつ江 2年
　 久保田敏子 2年
　 槇原　和子 2年

▽名古屋女子商高（愛知）

(1) 全国高校大会出場。
(2) 基礎体力、早い動き

GK 中西　則子 3年
　 稲本　陽子 2年
FP 小島　晴美 3年
　 佐野喜代子 3年
　 松原　長良 3年
　 小野　規子 2年
　 近藤あけみ 2年
　 牧田　政子 2年
　 磯部　真澄 2年
　 富田　沢子 2年
　 森本　洋子 2年
　 朝倉　敏江 1年
　 本多三千代 2年

▽福井商高（福井）

(1) 全国高校 大会 三回戦進出。
(2) よく走ること。

GK 寺井　和子 3年
　 万　友枝 2年
FP 横山　実代 3年
　 西本　礼子 3年
　 三井三恵子 2年
　 平田美智子 2年
　 吉川　通子 2年
　 松井美根子 2年
　 大竹口節子 1年
　 吉村　多代 1年
　 大井ひろみ 1年
　 中川　礼子 1年
　 永井　京子 1年

▽富山女高（富山）

(1) 国体、全国高校入賞。
(2) ディフェンス。

GK 中川美智子 2年
FP 高木　悦子 2年
　 藤岡　和子 3年
　 護摩堂恭子 2年
　 経堂　幸枝 2年
　 長谷川伸子 3年
　 島津婦美子 3年
　 伏間　敏子 2年
　 黒田　弘子 3年
　 土田　敬子 2年
　 大崎とし子 2年

▽大分東高（大分）

(1) 全国高校大会ベスト4。
(2) 持久力、機敏性。

GK 田中佐代子 2年
　 吉良　京子 1年
FP 溝辺　洋子 3年
　 藤野　朱美 3年
　 井上登代子 3年
　 安部　朝子 3年
　 山出　雅子 2年
　 日恵井久子 2年
　 内田　幸子 2年
　 高山　茂子 2年
　 上岡喜代美 2年
　 脇坂由美子 2年
　 姫野　道子 1年

▽寝屋川高（大阪）

(1) 近畿高校大会優勝。
(2) ロングシュート、ポストプレー。

GK 大西満起子 2年
FP 津熊美知子 3年
　 中野千津子 3年
　 前田　圭子 3年
　 戸井　晴美 2年
　 小西　邦子 2年
　 竹村みさ子 2年
　 中山登志子 2年
　 長砂ひろみ 2年

▽八幡商高（滋賀）

(1) 県大会で完全優勝。
(2) 機敏性と体力養成。ディフェンス。速攻。

GK 小島　文代 2年
　 太田　恒子 2年
FP 山口　文子 3年
　 小川　保子 3年
　 武田　加代 3年
　 高木　節子 3年
　 中島　京子 2年
　 市田　啓子 2年
　 高木真智子 2年
　 坂田　梅子 2年
　 村井　文子 2年
　 西川よ志子 2年
　 菅井二三子 2年

▽県立和歌山商高（和歌山）

(1) 近畿高校大会決勝進出。
(2) ロングシューター2人をつくりたい。GKの強化。

GK 前原　礼子 2年
FP 木村　友子 3年
　 上谷みゆき 3年
　 貴志　和美 3年
　 鈴木　孝子 3年
　 中尾　説子 2年
　 前　陽子 2年
　 高松　佳子 2年
　 高田賀世子 2年
　 坂本　順子 2年
　 和田真理子 2年
　 梶本美由紀 2年

▽井原高（岡山）

(1) 全国制覇。
(2) からだづくり。

GK 猪木　君子 2年
　 藤井　幸子 2年
FP 藤原　広子 3年
　 鳥越　貞代 3年
　 松田　公子 3年
　 山野　弘子 3年
　 多賀美智子 3年
　 高村　操 2年
　 佐藤由利子 2年
　 後藤　冷子 2年
　 岡本　典子 2年

▽明善高（福岡）

(1) 全国高校大会ベスト8。
(2) すべての面を強化。

GK 篠原　邦子 3年
　 川村有規子 2年
FP 山口レイ子 3年
　 国武スミカ 3年
　 橋本　豊子 3年
　 後藤　登子 3年
　 石井　民代 2年
　 渡辺百合子 2年
　 川島貴美子 2年
　 原　みち代 2年
　 牛島ミズヱ 2年
　 宮本　陽子 2年
　 井辺　道子 2年

▽菊池農高（熊本）

(1) 全国高校、国体で優勝。
(2) ディフェンスと走力。

GK 有働　洋子 3年
　 中田　妙子 2年
FP 青木　和子 3年
　 垂水　秀代 3年
　 早川　幸子 3年
　 愛垣　清子 3年
　 東　陽子 3年
　 渡辺須和子 2年
　 松野　せつ 2年
　 和田美恵子 2年
　 谷口つるみ 2年

ごきげん斜めの渡辺さん

楽書帳　21回

鷲尾武治

▽…中国遠征に9人の社員を送り出した渡辺和美氏（大崎電気工業社長）はこのところ浮かぬ顔。それもそのはず、日本チームが連戦連敗したからだ。「ナニまた負けた。なんだい、中国に20点も30点も取られて。これからいったい日本のハンドボール界はどうしたらいいんだい。全く情けないなー」。広州での第2戦で日本が30—20で勝ったのに喜ぶどころか「20点もとられちゃ勝っても資格はないね。せめて10点台に押えなければダメだ」とおカンムリ。このあと「このぶんだと次の世界選手権は中国とアジア予選。そして負けるのか。もうやる気がなくなった」。この渡辺社長の気持ちを日本協会の首脳部はどう受け取るか興味あるところ。とにかくごきげん斜めである。

▽…女子実業団は引退選手が続出している。まず東京都を見ると、大崎電気は深津久仁子、田村うた子、斎藤親子が引退し、チーム編成が手いっぱい。それに小笠原美佐子が故障で今シーズンは使えず、宮原監督は「来年は新人をたくさん入部させて強化をはかりたい。近く社長にお願いしてみます」となんとなく力がない。だれか大崎電気でプレーをやる人はいませんか。レナウン工業東京も同じ。山田帆浪、竹本千恵子、風岡亮子など主力が退部した。いま残っているのは渡辺征子。柿沼美美、太田美紀子ぐらいなもの。でも9人ほど新人がはいり、塩川監督は「夏の全日本総合選手権までにはモノにしてみせます」と張り切っている。愛知紡もエース塚原米子らが第一戦を退き、熊本の大洋デパートも千原が退部した。第一線を退いた選手のなかには結婚適齢期を迎えたものが多い。結婚は女性にとっては重大な問題。やむを得ないことだろう。

▽…沖縄へ遠征した熊本市立高校の北川先生から聞いた話。「沖縄の体育関係者は本土（日本のこと）とのスポーツ交流を非常に喜んでいた。本土から高校チーム男女各2チームが、わざわざ沖縄を訪れてくれたというので、大歓迎を受けました。だが沖縄にハンドボールを普及させるにはかなりの日時を要すると思う。ハンドボール講習会には約300人が参加したが、みんな熱心だった。いま沖縄には正式なチームはないが、琉球大学のバスケットボール・チームがハンドボール・チームに転向した。那覇でも近く女子のバレーボール・チームがハンドボールチームに切り替えると言っていた」。

◇　◇　◇

時評

独自の姿勢と活動を

— 全日本学連に注文する —

学連（全日本学生盟連）の弱体がこのごろよく耳にはいる。三、四年前はようやく学連も学生とOB有志の手で運営され、りっぱに一本立ちできるようになった。当時はその成長が賞賛されていたのになぜこうなったのだろうか。学連はシーズン（年度）ごとに執行部が卒業のため、よほどうまく事務の引き継ぎ、後進の指導が行なわれていないと、その運営がとたんに円滑さを欠き、果ては弱体な組織になってしまう。

現状は五つの地方学連（関東関西、東海、中四国、東北北海道）が主体となっているものの単なる連絡機関にすぎない。それでいながら各学連間の連絡ははなはだルーズなのである。情報交換、試合結果の通報、交換などは全く行なわれていないし、新年度役員の名簿さえも送られていない。学連は高体連、それに新設の実業団連盟とともに球界を支える一つの柱としてその存在は大きい。しかし、関係者にはそうした自覚があまりにも乏しく、自分の属するリーグの運営のみに追われて各学連の統括などは思いもよらない。全日本学生、学生王座、学生選抜東西対抗など学連事業はうまく行なわれているではないかと反論されるかもしれない。これは開催地の地方協会の支援があるから表面上、とどこおりなく進行しているにすぎない。地方学連と地方協会間の連絡の行き違いから、過去いくつかのトラブルが起こりかけているのである。学連の弱体をこれは物語るものではいなのか。

▽…国際試合など学連が主催するカードが一つや二つあってもよいと思う。世界学生選手権（昭和39年1月）の第1回大会には参加、今年1月の第2回大会は不参加に対する態度にしても日本協会に依存するのではなく、学連としての意見を持ち、それを示すべきだと思う。こうした期待は、学連業務の執行専従者がいない現状では望むべくもない。本来これが常識なのではなかろうか。加盟校の拡張についても直接的には各地方学連の努力によるもの。学生界全体の問題として学連自体でもっと積極的な対策、方針を打ち出すべきであろう。女子チームの問題などもここ二、三年は放任状態。全日本学生女子選手権の開催も掛け声ばかり。少しも努力していないようだ。

学連規約を整備、検討しなおしたうえ、関東学連、関西学連あたりが中心となり意欲的な学連独自の活動を展開するよう望みたい。（S・S）

エールフランス

パリへの直行便〈北極回り〉

ビジネスでヨーロッパへ旅行されるお客さまのために、エールフランスでは〈北極回り〉にボーイング707ジェット機を就航させております。

北極回り　東京発　午後　10時30分　〈水・金〉
パリ着　翌朝　9時5分

パリを中心として、ヨーロッパの各地にエールフランスの航空網が縦横にひろがっております。またエールフランスでは日本のお客さまのために、機上には日本人スチュワーデスを、ヨーロッパの各主要都市には21名の日本人駐在員を配置し、常にお客さまのお世話をいたしております。なお、南回りは〈月・火・木・土・日〉の午前10時30分パリへ向け就航しております。

AIR FRANCE
LE PLUS GRAND RÉSEAU DU MONDE
à Votre Service

東京都港区赤坂溜池　エールフランスビル　電話（584）1171代表
東京都千代田区日比谷　三井ビル　電話（501）6331代表
大阪市東区大川町淀屋橋　勧銀ビル　電話（202）6326代表
名古屋市中村区広井町3—88　大名古屋ビル　電話（54）0540

西ドイツ週間誌から

ドイツ各地の国内試合を追う

20号で紹介したように、西ドイツでは多くの地域ごとのリーグに分れて試合が行なわれている。昨年冬の戦績はどのようになっているか。本号では2月現在各地域の動きを見てみよう。

ベルリン地区

ここではポリツァイSVが優勝まであと1勝につぎつけている。常勝BSV92が2敗のまま、それにぴったりくっついている。最近まで無敗で優勝圏にいたラインフヨヒセが、意外にもOSCシェーネベルグに敗れた。このためポリツァイSVがクローズアップされた。ポリツァイSV、BSV92、ラインフヨヒセの3チームの中から優勝チームが出ることは確実。あとの7チームは僅か3勝しかしていない。

中部ライン地区

ここではバイエルリバワーンゼが5戦5勝をあげてトップ。それに続いてVFLグンメルスバッハが4戦4勝をあげている。ポリツァイリンニヒ、TVクヘンハイムがそれぞれ5勝、4勝をあげているが、両チームともかなり負けがこんできている。優勝は無敗の両チームからでるだろう。

シュレスヴィッヒホルスタイン地区

ここはそれぞれ各チームと2試合ずつ行ない、勝負を決めているリーグである。ここでは毎年よい戦績を残しているTHWキールが快調な戦いを続け、優勝した。

ハンブルグ地区

HSVが15勝1敗とすばらしい成績で優勝を決定した。これに続くのがセント・ゲオルグの13勝3敗。ベデールはついに1勝もあげられず16敗。HSVと対戦して30—8の大差で敗れているのでは、この成績も致しかたあるまい。

下ライン地区

ブッペータールSVが無敗の進撃を続けている。BSVゾーリンゲン98が2敗したため、優勝はブッペータールSVに決まった。デュッセルドルフの3チームはいずれも負けがこんでおり、今季はまず望み薄といった状態。ここは守りのチームが多いようで、点差は少ない。

ノーマークシュート（ヘッセンの試合から）

ラインランド地区

ここでの有名チームはポリツァイ・コブレンツである。少し調子が悪く、リーグの大半を消化しているが優勝の望みが全くなくなっている。TVケールリッヒが9勝無敗と断然群を抜いた強さを示し、話題を呼んでいる。ナショナルチームの選手をかかえているTVミヨールハイムも4勝3敗2引き分けと振わない。RWコブレンツ、GWオーバーメンディッヒが1勝しかあげていない。TVジィースバッハはまだ1勝もあげられず、不振をかこっている。このリーグは今季は引き分けが7ゲームもあり、リーグの順位をむずかしくなっている。

ビュルテンベルグ地区

ここにはケンパ氏のFAギョッピンゲン、さらに来日したい意向を伝えてきたエスリンガーTSVなどの有名チームがいる。ケンパ氏の率いるFAギョッピンゲンは今年も調子よく、7勝1敗でトップ。2位のSVメーリンゲンに敗れたため、惜しくも1敗したが、いぜんトップであることに変わりはない。SVメーリンゲンはFAギョッピンゲンを破り、かろうじて優勝圏内にとどまっている。VFLオスバイルがSVメーリンゲンと同成績で続いている。エスリンガーTSVは今季は不調で、2つの引き分けをはさんで2勝4敗とふるわない。

典型的な倒れ込みシュート

ヘッセン地区

ここでは1000人の観衆を集めて決勝戦が行なわれた。TSV1871キルヒ・ブロムバッハが9—8でTVホッヘルハイムを破って優勝した。これは劇的な逆転試合であった。6—8と2点リードされていた1871は3点連取した。これで決勝戦に劇的な勝利を得たTSV1871は昨年の雪辱を遂げた。この試合で大活躍したのはTSV1871のクレーマー、クリーヒバウム、ホッヘルハイムのベルナーである。

バイエルン地区　TSVミルバーツホッヘンが断然強く7勝をあげて優勝した。2位は4勝2敗1引き分けのESVミュー・ライム3位はTSVアンスバッハ。ポストSVミュンヘンは1勝もあげられず、シーズンを終わってしまった。この地区でおもしろいのは、優勝したTSVミルバーツホッヘンの総得点はリーグ4位であるということだ。もちろん総失点はリーグ最少であるが、守りのチームという特徴を備えているチームということがいえよう。1試合平均13点しかあげていない。それで優勝というのだから、いかに守備が強力であったかがわかる。

ウェストファーレン地区

優勝はGWダンケルセン・チーム。このチームにはナショナル選手のマンフレッド、ホルスケッターがおり、圧倒的な強味をみせて勝ち進んだ。このリーグは下位チームの入れ替えが行なわれた。

バーデン地区　ロイターシャウゼンが圧倒的な強味をみせ、10勝1敗で優勝した。このチームは平均得点12点、平均失点5点、いかに守備陣が強力であるかがわかる。ここの主競技場は日本チームも試合したことのあるカールスルーエの体育館。

ファルツ地区　TUSダンゼンベルグが優勝した。各チーム2試合ずつ総当たりのリーグ。このチームの1試合平均得点は12点、失点は7点台。2位はTSGハスロッホ。最下位はSVフリーゼンハイムで、1試合平均得点9点、平均失点14点。

◇◇◇

以上のように今季の試合は各地ともたいした番狂わせがない。それぞれの地区の強チームたとえばベルリンのポリツァイSV、BSV92、中部ラインのバイエルン・リバワーゼン、シュレスビィッヒ・ホルスタインの常勝THWキール、ハンブルグのHSV、下ラインのBSVゾーリンゲン98、ビュルテンベルグのFAギョッピンゲンなどの有名チームはすべて好成績をあげている。

もう一つ気のつくことは得点が比較的少ないことである。かなり強いといわれているチームでもリーグ戦の1試合平均得点は15点。この点、守備力が非常にすぐれていることがいえる。決勝戦でも互いのスコアが1ケタということがしばしばあった。以上のような状況は男子の上級リーグであるのだが、まだまだ多くのリーグが上級リーグ目ざして大いに練習をしている。ここに国民スポーネとして成功しているドイツハンドボールの強みがあるのだ。

クンスト氏イスラエルへ

国際ハンドボール連盟の技術委員会委員であり、またルーマニアハンドボールチームの育ての親、イオン・クンスト氏は4月にイスラエルへコーチに行った。これはイスラエル・ハンドボール協会会長ジンガー氏が国際連盟に『優秀なコーチをぜひ送ってほしい』と申し込んだもの。『イスラエルは『ぜひ世界一流のものにしたい』との願いから生れたものである。

イオン・クンスト氏はルーマニアのハンドボールを世界一に育てた人。彼は1カ月間、イスラエルでコーチした。

コーチする試合中のクンスト氏

◇◇◇

こどもスポーツ学校で強化図るハンガリー

組織機構はソ連が本家だが、ハンガリーも米豪の方法を採り入れて、最近「特別こどもスポーツ学校」を設置して一段と強化を図つている。

首都ブダペストのほか、各スポーツ協会（クラブ）付属の20校、中心都市10、地方36にそれぞれこの種の学校が新設ないし補強されている。満10歳以上なら入門できるこの学校は陸上、卓球、**ハンドボール**、バスケットボール、サッカー、ボート、テニス、体操水泳、水球、フェンシング、近代五種、バレーボールの13種目に分かれ、それぞれ希望によって専門の練習をやることができる。

さすが近代五種の王国を誇る国だけに、フェンシングとならんでローティーンから近代五種競技の手ほどきを受けられるというわけ。昨年度の豆会員全国で15、000人。10歳から13歳のあいだで三つのエイジグループに分かれて互いにわざをきそい合っているのだ。

ことしは新たに「12—13歳」グループにレスリング（フリー、グレコ）、柔道、スキー、アイスホッケーの四種目が加えられたため、入門者がグンとふえ、関係者の計算によると7、000—8、000人に増加するとのこと。

ハンドボール見込み薄　メキシコ五輪種目

【ローザンス12日発ロイター＝共同】4月12日のIOC、IF合同会議で、IF側からオリンピック公式種目として認められた二十一種目全部をメキシコ大会で実施するように要望が出された。現在、柔道、**ハンドボール**、洋弓の三種目が除外されているが、ブランデージIOC会長は「柔道はメキシコ大会では採用されていないが、追加することは可能である」と語った。（報知新聞から）

もてるポロシャツ
もちたいポロシャツ
レナウンポロシャツ
ボンネル
RENOWN
レナウン
レナウン工業株式会社
レナウン商事株式会社
東京・大阪・札幌・仙台・名古屋・広島・福岡

—田村紡を優勝に導くまで—

基礎練習と根性の養成

宇津野年一

宇津野年一氏、シユートの手本を示す

三重県中学界の無敵チーム、成章中女子ハンドボールチーム（岡重昭監督・三重県四日市市）が入社したのが昭和37年。平均身長156センチ、全くあどけないオカッパチーム。中京大（女子）の連中から『からだは小さいがすばらしく足が早く、その速攻に手も足も出なかった』と聞かされても正直なところ、あまり関心はなかった。第一印象は「パス・キャッチがうまい。そしてよく走り、早い」であった。チームの内容を理解しないで良いコーチはできないと私は考えた。その日はチームの練習計画にしたがって彼女たちと一緒に練習した。その間に彼女たちの特徴、欠点などを観察した。そして練習で見た彼女たちのプレーについて、そのつど理論と実際を説明し、私の指導法の一端を彼女たちに理解してもらうことに努めた。

私の指導方針

私の指導方針は「基礎技術」の完成であり、いつでも基礎に戻し、基礎に忠実に実践することである。そして私自身つねに「童心に返って選手とともに歩け。そして努力せよ」と言い聞かせている。この私の指導理念を田村紡チームにも浸透させることが〃大田村紡育成への道〃と考え、初練習で観察した資料を基にしてスタートしたのである。彼女たちの長所は走ることである。でもその走りはいつでも直線的であることが目についた。次にシュートではジャンプシュートはうまいが、ステップシュートはじゅうぶんでない。ステップシュートはステップパスから発展するもので、このパスは攻撃におけるパスワークの中心をなすものとして絶対欠かせないものである。これらの点を考え、走りでは斜進法を、シュートはステップを、個人技としてフェイントの完成を……。合わせて、徒手系の補助運動で彼女たちの不足するからだづくりに重点をしぼって計画を立てた。しかし目の前の全日本総合選手権に備えてこの練習では満足できなかった。これに併用して特に防御位置の選び方などを応急手当てとして約一週間練習した。これが私の最初のお手伝いであった。

目標とした四つの城壁

くじ運もあって全日本総合第3位という幸運なスタートを切ったこの少女チーム田村紡が、その年の全日本総合室内、全日本実業団選手権とたて続けに参加したものの全く意のごとくならず、そのたびに基礎技術の不足を痛感し、根性の不足が反省のポイントになった。私はチームで一人の英雄を育てる指導法は大反対である。チームの全員に同じ機会を与え、同じように導いて競争させ、〃毛利精神〃で突進することがチームの真髄だと考えている。しかしチームを引っ張り、チームをまとめる中心人物は絶対に必要である。この点田村紡がどの大会でも希望を持ち、夢の実現にはせ参じては敗れた。そのたびに反省させられた大きな問題の一つが、この引っ張り役のいなかったことである。幸いにも38年には稲沢高の主将川口をメンバーに加え、39年度にはその後輩の内藤、四日市高の小林の入部によって一応のメドがついた。しかしながら決定的な決め手にはならなかった。チーム・ワークのよさがかえって遠慮がちとなり、消極的となつた。そしていつでも根性の不足を痛感せざるを得なかった。もちろん私の指導力の不足を指摘しなければならないが、この点私の体力の限界をひしひしと身に感じたものである。敗れては基礎に戻し、基礎—基礎—基礎。そして努力—努力—努力。男子高校と対等にがんばる体力と技術を持ちながら…。努力のたりなかったことを反省し、また基礎に戻して第一歩から出直そうと慰め合った。

39年の喜びと悲しみ

39年5月先輩の愛知紡に8—7で勝ち、初めて東海選手権を握った。私はこの試合を見なかったが、彼女たちの笑顔を思い浮べることはむずかしいことではなかった。先輩に恩返しのできたのである。彼女たちがこれによって得たわずかな自信は、その後の練習態度ではっきり感じ取ることができた。『ことしこそはきっとやってくれる』そう胸の中で喜んだのは私一人ではなかろう。関係者の顔にもほのかな輝きが見られたのもそのころであった。しかしその喜びも国体、全日本総合の惨敗と続き、その落胆は特に大きく、帰る足の重いことは想像していただきたい。

残されたチャンス

晴れぬ彼女たちは全日本総合室内選手権に大きな望みをかけた。私は選去の大会で得た反省資料を基に各選手の処方箋をえがいて指導した。精神的には「失敗を恐れず、失敗した者からハッスルしよう」を合い言葉にした。その後の

練習は条件を悪くして最良の成績をあげるように計画した。近郊への遠征試合を計画したのもそのためである。しかもほとんどウォーム・アップをしないでゲームをしたり、連続何試合も行なったりした。ねらいは根性の養成である。

さらに大会も迫った二週間前は攻撃一本やりで、一週間前は防御一辺倒の練習にポイントをおいた。「やることはすべてやった。自信を持って」と励ました。そして大崎電気、レナウン、愛知紡、大洋デパートを打ち破って、夢にまで見た初優勝に泣いたのである。若い若いといわれて2年9ヵ月。1ミリまた1ミリと前進した。先輩の胸を借り、押し倒されてはまた立ち上がった。歯を食いしばって基礎の積み重ねをした。この努力が若い田村紡に栄冠を授けられたものと思っている。私は週一、二回の指導しかできず、これで私が田村紡を優勝させたなどと思ってはいない。一に田村社長の温かいご理解。会社のみなさんのご支援によるものである。（了）

同志社大が優勝

西日本学生選手権 甲南大健闘して二位

新シーズン開幕をつげる第5回西日本学生選手権は4月15日から4日間、大阪市立中央体育館（最終日のみ大阪府立体育会館）に20校（関西15、中四国4九州1＝棄権）が参加して開かれた。シーズン初めらしく波乱に富んだ大会となったが、決勝で同志社大が初優勝した。

▽1回戦

広島大 11（5－4、6－7）11 大阪経大 抽選勝ち

桃山学院大 41（20－7、21－5）12 大阪市大

岡山大 不戦勝 西南学院大

大阪大 25（18－11、7－8）19 立命館大

▽2回戦

甲南大 16（7－9、9－7）16 神戸大 抽選勝ち

京大 30（17－8、13－10）18 大阪工大

大阪府大 15（4－4、11－7）11 広島商大

大阪歯大 31（14－10、17－11）21 大阪学大

関学 26（12－12、14－8）20 広島大

同志社大 25（14－6、11－2）8 桃山学院大

山口大 16（11－7、5－9）16 岡山大 抽選勝ち

関大 30（15－8、15－3）11 大阪大

▽準々決勝

甲南大 22（10－11、12－11）22 関学 抽選勝ち

同志社大 22（8－7、14－4）11 京大

大阪府大 23（11－9、12－6）15 山口大

関大 33（17－4、16－5）9 大阪歯大

▽準決勝

甲南大 18（8－8、10－5）13 大阪府大

同志社大 16（8－10、8－3）13 関大

▽3位決定戦

関大 31（15－11、16－9）20 大阪府大

▽決勝

同志社大 21（12－7、9－7）14 甲南大

得	【同大】			【甲南】	得
0	谷	林	GK	宅 三	0
1	藤	佐	FP	田 高	1
1	井	川		田 福	6
2	藤	斎		井 松	1
9	田	飯		光 久	4
4	林			淵 川	0
4	葉	稲		戸 平	2
0	本	守		井 酒	0
0	浦	松			
0	野	岩			
21	(4)		7MT	(2)	14

◇　◇　◇

京大が初優勝

関西学生春季リーグ戦は5月1日から京都体育館で開幕した。一部は京大が昭和23年加盟いらい初めて優勝した。二部は桃山学院大が優勝した。

「一部順位」

1. 京　大　7戦7勝
2. 同志社大　6勝1敗
3. 関　大　5勝2敗
4. 関　学　4勝3敗
5. 立命館大　3勝4敗
6. 甲南大　2勝5敗
7. 大阪経大　1勝6敗
8. 大阪大　7戦7敗

〔全成績は次号に掲載〕

ユニとは品質の最高を表わし、また材料や工程の一つ一つに類がないことを表わします。ユニは唯一つ最高の鉛筆です。

GH－6B 17硬度 1ダース ¥600

三菱鉛筆

ハンドボール少年団結成を望む

日本協会常務理事　山岡二郎

全国的な少年団結成

『ハンドボール協会がハンドボール少年団を育成して普及の一助にしてはどうだろう』という堅い意見を理事長に述べたのは、日本スポーツ少年団発足当時だったと思う。もっとも日本スポーツ少年団をつくろうという声はローマオリンピックの前々年のことだったが、当時はまだ今日のような考え方ではなかった。『今後の日本の青少年にスポーツを大いにやらせて教育しないと、非行少年があっちこっちに流れ出てたいへんなことになるぞ』という漠然とした考え方だった。それがローマ大会後、日本体協が本格的に取り組むようになってみると『いったい少年団とはなんぞや』という原則論から論ぜられるようになった。簡単に『スポーツで青少年育成』などと考えていたが、だれが育てるのか、どこが中心になるのかという点が出てくるとその壁はとても破って進めない。街の有志が二人三人でつくるていどの少年団なら苦労もない。なにせ全国的なつながりをもち、その数二百万―三百万の大世帯にしようというのだ。ヘタに手を出したらたいへんだ。とても成長させることはむずかしい。

そういった数々の難点を覚悟して日本体協が『今後の仕事の大きな分野を占めるこの仕事に打ち込もう』と打ち出したのだから急に進展を見た。こうなるとその理念は日本全国に通ずるものでなくてはならないし、また世界的な視野に立っての考え方だ、節の通ったものでなくてはならないという考え方になってきた。

みな明るい社会人に

これは当然のことである。スポーツを通じて青少年を肉体的に、精神的に、道徳的にしっかりきたえていこう。それがいちばんの柱にならなくてはならない。それには現在スポーツに親しんでいる青少年ではなくて、街にこぼれている青少年を集めて少年団員として教育していこうという線がでた。これは全く理想である。将来は町に、村にスポーツ愛好の奇年多くなってどの青年も少年も明るい社会人に育っていく。これが少年団の理想とする成果である。こうなると町の少年、青年がいまの日本の段階で直ちにスイッチが切り替えられるだろうか。恐らくこの点で団結成が鈍ったのではなかったろうかと思う。これは理想の姿。現段階で一足とびにこれを切り替るのが不可能なら、それまでのツナギをどうすればよいのかということになる。少年を手にしてもその活動の場をどうするか。ここに大きな問題があり、なかなか簡単にいかない。高く揚げた理想な変えられない。将来の理想像を右に左に置き替えることでなくて、現在スポーツに親しんでいる少年をそのまま登録する。そしてそのクラブ、クラブに新しく一人二人とスポーツをやらない少年を入部させる。スポーツ愛好者の数をふやしていく。さらに現在クラブで活躍している者を指導して、将来のリーダーとする準備を進める。そうして新しく生れるリーダーなり指導者が次々と新しい団員を獲得していく。そして町に村に根をおろしたときに、初めて理想の少年団に置き換えられる。現在はその過度期と考えるべきだろう。一足とびの理想像は望めない。スポーツをやらない少年には二通り三通りある。他教科の勉強がいそがしくてやらない少年。スポーツがきらいでやらない少年。スポーツをはじめてもすぐあきてしまう少年…。こうした少年をすぐスポーツに狩り集めることはなかなか容易のワザではない。できればスポーツばかりではなくて、山歩きの会、歌のつどいと思考を考えた各方面から指導する。そして趣味を同じくする同士となるのではないだろうか。現在ぶらぶら遊ぶことによって楽しんでいるものにそれをやめさせる。『こちらにこい』といってもそれはむずかしい。いわばいま味わっているお菓子よりも、さらにおいしいものを与えることによって転向させることの方がいい。スポーツは経験者のみが味わうことのできる味であるが、おいしい、楽しいと味わせるまでには相当の時日を要すると思う。

年２回のスポーツテスト

そうすると現在ハンドボール少年団を結成する場合の具体的な方法は？ハンドボールを有する学校の部員をそのまま団員として、指導者は部長が、リーダーはキャプテンがそのまま登録すればそれで結成登録が完了する。『日本スポーツ少年団ハンドボール少年団』と名のることができる。完了と同時に団旗が授与される。登録は都道府県の体育協会に登録することになっている。その都道府県体協に少年団結成がなされていない場合は、直接日本体協のスポーツ少年団に登録すればよい（現在全国の体協にできている）。このさい、団員は年二回のスポーツテストをやることになっている。これは前にも述べたように、単にスポーツをやらせて楽しませるだけではなく、各自にその効果を正しく理解させ、希望をもたせるためにやらせるのである。優秀なる者には協会制定のバッジが授与される。

そこで理想の姿ではないが、こうした段階をふんでその結成をさせるわけだが、ハンドボール少年団を正しい少年団員という立ち場から見た場合、ハンドボールのみをやることは理想の姿ではない。ハンドボール部員が年二回のスポーツテストを受けることで団員としての責任を果たすことになる。いま全国で結成されている少年団というのは、大なり小なりそうした形のもののようである。特に体協にある各種スポーツ団体も、各自の競技の普及をねらった少年団づくりをしようとしている傾向がある。柔道少年団、サイクリング少年団、剣道少年団といったように…。しかしこれらの登録された団員が、こんご剣道のみ、柔道のみに専念することになれば、それは少年団としての理想像ではない。やはりの団員は年二回以上のテストを受けなければならない。形式的なものにならないかとの疑問も出るだろうが、それは愛する青少年を育成しようという高い理想に燃えるスポーツ愛好の良心に訴える以外はないのではないか。

スポーツを通じて人間づくり

こういった意味をよく組みとって、各都道府県にあるハンドボール愛好者によるハンドボールスポーツ少年団が結成される。この場合、ハンドボールの将来は明るい。一人でも二人でも多くの愛好者をつくることはハンドボールを広めることにもなる。わたしはハンドボール協会の立ち場にあって、日本スポーツ少年団の立ち場にあってこれを考えたとき、少年団の理想実現のためにハンドボール愛好者が現在やらねばならないのはこの少年団育成（結成）ではないかと思う。ハンドボールという一球技を通して人間づくりをするのだという理想。これがすなわち日本スポーツ少年団の目ざす点に合致するように思う。東京都ハンドボール協会が中学校のハンドボール普及のために、高校ハンドボール人口の拡大のために多額の補助金を出して努力している。これを考えたとき、東京にまず現在の数倍数十倍するハンドボール少年団が生まれなくてはならない。そうして各都県のハンドボール少年団との結びができて全国的な団結ができるも夢ではない。

◇　◇　◇

立大、6度目の優勝
関東学生リーグ

関東学生リーグは5月3日から22日まで東京・駒沢第二球技場で行なわれた。この結果、立大が7戦7勝で2年ぶり、6度目の優勝を飾った。（全成績は次号に掲載）

▽第1日
芝浦工大34―5茨城大
立　大19―16明　大
教　大27―17中　大
日体大32―15法　大

▽第2日
立　大21―13日体大
芝浦工大30―10中　大
茨城大15―14法　大
教　大23―15明　大

▽第3日
立　大25―15中　大
明　大20―14法　大
教　大25―14茨城大
芝浦工大22―10日体大

▽第4日
明　大20―18日体大
中　大23―13茨城大
立　大18―9教　大
芝浦工大25―13法　大

▽第5日
教　大14―12芝浦工大
立　大17―8法　大
日体大20―18茨城大
中　大28―18明　大

▽第6日
法　大24―23中　大
教　大21―16日体大
芝浦工大17―8明　大
立　大31―8茨城大

▽最終日
茨城大16―15明　大
中　大24―10日体大
教　大18―17法　大
立　大21―13芝浦工大

「一部順位」
1. 立　大　7勝0敗
2. 教　大　6勝1敗
3. 芝浦工大　5勝2敗
4. 中　大　3勝4敗
5. 日体大　2勝5敗
5. 明　大　2勝5敗
5. 茨城大　2勝5敗
8. 法　大　1勝6敗

連載第13回

ハンドボール球史

——国体，軌道に乗る——

駒沢に専用グラウンド

第4回を迎えた国体は昭和24年10月30日から5日間東京都を中心に開かれた。終戦後このような総合大会が関東地区で行なわれたのは初めて。経済問題などで制約をつけながらもすべての面で過去三回の大会を上回る充実した大会になった。

ハンドボール競技もようやく高校男女の4部門となり予選を行なう地区も多くなった。また4部門ともやっと府県対抗ができるようになり〝国体〟は全国のプレーヤーの最高目標となった。（注・当時はまだ全日本総合、全国高校、全日本学生などは行なわれていなかった）

この大会で記憶されなければならないのは駒沢（東京都世田谷区）に専用グラウンドが新設されたことだ。この場所は戦前の駒沢ゴルフリンクで戦時中は全面農地となっていたところ。ホッケー場とともに約四百四十万円の予算で造られた。都内に専用グラウンドを持つことは協会創立期からの夢であり大きな喜びであった。このグラウンドはその後ハンドボール界の本拠地として親しまれ、オリンピック工事で改修される昭和37年7月まで存続していた。現在は駒沢オリンピック公園になっている。

競技面ではレベルが平均し、熱のはいった好試合が多かった。なかでも高校男子の天王寺高（大阪）の3連覇、一般女子の大阪代表が4連覇が目だち、高校女子で過去2年決勝で敗れた岡山代表が初めて大阪代表を破って初優勝した。

▽第4回（昭和24年10月30日〜11月3日・東京都駒沢）

▼高校男子1回戦
津　山（岡山） 5―3 一　宮（愛知）

▽同準々決勝々者
天王寺（大阪）、津山（岡山）、世田谷工（東京）、済々黌（熊本）

▽同準決勝
天王寺 3―2 津　山
世田谷工 4―2 済々黌

▽同3位決定戦
津　山 4―1 済々黌

▽同決勝
天王寺 5（2―3 3―0）3 世田谷工

天王寺高の優勝は3連続優勝。3回目、大阪代表は4年連続優勝。

▼高校女子1回戦
小豆島（香川） 記録不明

▽同準々決勝
春日丘（大阪） 5―1 一　宮（愛知）
岡山一女（岡山）、小松（石川）、平塚女（神奈川）―記録不明

▽同準決勝
岡山一女 4―2 小　松
春日丘 6―4 平塚女

▽同3位決定戦
小　松 5―4 平塚女

▽同決勝
岡山一女 4（2―0 2―1）1 春日丘

岡山一女は初優勝、岡山代表の優勝も初めて。

▼一般男子一回戦
岡崎ク（愛知） 5―4 山口ク（山口）
大阪ク（大阪）、東京ク（東京）、熊本ク（熊本）―記録不明

▽同準決勝
東京ク 8―3 熊本ク
大阪ク 12―4 岡崎ク

▽同3位決定戦
熊本ク 12（4―0 8―0）0 岡崎ク

▽同決勝
東京ク 6（3―3 3―2）5 大阪ク

東京クは初優勝、東京代表の優勝も初めて。

▼一般女子1回戦
大阪ク（大阪） 記録不明

▽同準決勝
倉敷精恩ク（岡山） 4―0 全山梨（山梨）
大阪ク 2―0 愛知ク（愛知）

▽同3位決定勝
愛知ク 2（0―0 2―0）0 全山梨

▽同決勝
大阪ク 4（2―0 2―0）0 倉敷精恩ク

大阪クは3連勝3回目、大阪代表は4年連続優勝。

▼天皇杯順位 ①大阪 ②岡山 ③東京

▼皇后杯順位 ①岡山 ②大阪 ③愛知

（注）天皇、皇后両杯順位の基準となる得点計算の方法は現行利度と異る。

天王寺高4連勝ならず

第5回大会はこの年の1月に第1回全日本総合（一宮）8月に第1回全国高校（藤井寺）が開かれたこともあって、各チームの間の対抗意識や府県意識が高まり白熱した試合が続いた。新設された一宮市九品寺送球場（現・一宮陸上競技場）の開会式は一万四千の観衆が集まった。その大観衆の前で地元愛知が一般男子準優勝、高校女子3位、高校男子4位の好成績を収めた。以後、愛知県のハンドボール界の発展に大きな役割を果たした。

競技も一般男子決勝が日没から翌日再試合を行なうことになった。高校男子準決勝も第2延長にもつれ込み、同準決勝済々黌（熊本）対天王寺（大阪）も第2延長後も優劣がつかず、判定勝負という異例の処置がとられた。この判定で第1回いらい連続高校男子のタイトルを握っていた大阪代表が初めて敗れ、天王寺高自身も4連勝を逸した。また一般女子の大阪代

表も5連勝をはばまれた。4部門の勝者が別々の所属地であったのもこの大会が初めてのことであり、優秀地区の偏向が薄れたことを示した。

なお、オフ・サイドを全廃した国際ルールを国内で適用したのは、この大会が最初である。

▼第5回（昭和25年10月28日～11月1日・愛知県一宮市）

▼高校男子1回戦
小豆島（香川）5－3 盛岡（岩手）
山口（山口）10－3 墨田川（東京）
▽同2回戦
足利（栃木）8－4 天城（岡山）
一宮（愛知）7－2 那賀（和歌山）
高岡中部（富山）5－3 小倉中央（福岡）
済々黌（熊本）4－3 麻生（茨城）
富士（静岡）7－3 新居浜西（愛媛）
天王寺（大阪）10－3 北佐久農（長野）
竜野（兵庫）6－3 小豆島
山口 10－1 函館中部（北海道）
▽同準々決勝
足利 12－2 竜野
一宮 5－1 高岡中部
済々黌 4－1 富士
天王寺 8－7 山口
▽同準決勝
済々黌 0（0－0、0－0……0－0、0－0）0 天王寺

延長の結果、両チーム無得点のため抽選を行ない、済々黌高校の決勝進出が決まった。

足利 4（0－0、4－0）0 一宮
▽同3位決定戦
天王寺 2（2－1、0－0）1 一宮
▽同決勝
足利 3（1－2、1－0……0－0、0－0、1－0、0－0）2 済々黌

足利高は初優勝、栃木代表の優勝も初めて。

▼高校女子1回戦
那賀（和歌山）4－2 函館西（北海道）
宇都宮（栃木）7－4 小豆島女（香川）
青陵（岡山）12－1 筑紫中央（福岡）
太田二（茨城）5－3 山口農（山口）
小松（石川）8－1 宮城第一（宮城）
静岡城北（静岡）2－1 熊本市立（熊本）
▽同準々決勝
瑞陵（愛知）2－1 那賀
青陵 7－1 宇都宮
小松 3－1 太田二
春日丘（大阪）5－0 静岡城北
▽同準決勝
青陵 3（2－0、1－0）0 瑞陵
春日丘 7（4－0、3－0）0 小松
▽同3位決定戦
瑞陵 4（1－1、2－2……1－0、0－0）3 小松
▽同決勝
春日丘 5（3－1、2－3）4 青陵

春日丘高の優勝は2年ぶり2回目、大阪代表の優勝は2年ぶり3回目。

▼一般男子1回戦（1試合）
仙台ク（宮城）11－1 愛媛ク（愛媛）
▽同準々決勝
愛知ク（愛知）10－3 函館ク（北海道）
東京ク（東京）10－2 山口ク（山口）
福岡ク（福岡）17－1 北辰ク
大阪ク（大阪）8－6 仙台ク
▽同準決勝
福岡ク 10（3－5、5－3……1－1、1－0）9 東京ク
愛知ク 9（2－1、7－3）4 大阪ク
▽同3位決定戦
東京ク 7（3－1、2－4……0－0、2－0）5 大阪ク
▽同決勝
福岡ク 1（0－0、1－1）1 愛知ク

日没により引き分け再試合。

▽同決勝再試合
福岡ク 7（3－2、4－2）4 愛知ク

福岡クは初優勝、福岡代表の優勝も初めて。

▼一般女子1回戦（参加7チーム）
全山梨（山梨）3－2 愛知ク（愛知）
小松ク（石川）5－1 函館ク（北海道）
青陵OG（岡山）19－1 筑紫ク（福岡）
▽同準決勝
大阪ク（大阪）3（1－1、2－1）2 全山梨
青陵OG 5（1－1、4－1）2 小松ク
▽同3位決定戦
全山梨 8（4－0、4－0）0 小松ク
▽同決勝
青陵OG 3（1－1、2－1）2 大阪ク

青陵は初優勝、岡山代表の優勝も初めて。

▼天皇杯順位 ①大阪 ②愛知 ③岡山
▼皇后杯順位 ①岡山・大阪 ③石川

【第6回大会以降は次号】

日本協会だより

第1回常務理事会議録

日　時　昭和40年4月7日（水）
場　所　日本ハンドボール協会事務所
出席者　高嶋、青木、若崎、松本、宮崎、加藤、境井、浜田、的場、岡村、（オブザーバー）藤本理事（委任）山岡、入江
欠席者　吉田、徳永、栗脇、山田

〔報告事項〕

1. 沖縄ハンドボール普及遠征について
3月末～4月上旬にかけて親善試合（高校対抗）、模範試合および普及講習会の馬場、松本両氏高校4チームが遠征して実施とした。

2. 体力づくり国民会議について
第1回会議に的場常務理事が出席した。なおスポーツレクリエーション会議の委員として的場常務理事を決めた。

3. 杉山寿氏（前理事）が今回、ロンドン駐在になるので、ヨーロッパ駐在理事としたいという意向を決定した。この件に関しては評議員の了承を求め決定する。

4. ソ連の労働者スポーツ協議会から総評を通じて、日本からハンドボール選手団14人を送ってほしいとの連絡があった。これは今年度の協会行事予定になっているソ連遠征とは性質を異にするため日本代表とはしないし、国際試合とも認めない。

〔議　案〕

1. 第8回全日本教職員選手権大会について
3月24日付けで長崎県から本年度大会を開催したいむねの希望があった。従来は東京、横浜、大阪、京都とその周辺で行なうことを原則的申し合わせとしていたが、普及のためにもあって長崎県に内定した。しかし鹿児島の意向もあったので、藤田八郎氏（九州選出理事）に問い合わせることにした。高嶋理事長は4月9日、藤田八郎氏に電話で連絡をした結果、長崎県開催を決定した。

2. 協会事務局組織の分掌担当者、専門委員について
① 事務局組織分掌担当者を次のとおり決定した

事務局組織

- 会長　式場
- 理事長　高嶋
  - 総務　岡村
    - 庶務　宮崎
    - 登録　宮崎
    - 報道　増田
    - 用具　浜田
  - 財務　加藤
    - 会計　加藤
  - 審判　若崎
    - 審判審査　徳永
    - 規則研究　安藤
    - 記録整備　中沢
  - 技術　松本
    - 強化　勝
    - 科学研究　広田公一（トレーニング・ドクター）
  - 普及　的場
    - 普及　佐野
    - 学校体育対策　山岡
    - 少年団育成　青木
  - 渉外　境井
    - 国内　田中
    - 国外　河内、杉山寿

② 専門委員会委員
次のとおり決定した

▽規則研究委（若崎）安藤、中沢、藤本、西山、岡前、大塚、藤原、岡村、佐野、豊島
▽審判審査委（徳永）入江、山田計、安藤、藤田信、若崎
▽普及委（的場）八木、平地、佐野、深美、高橋健、中野、田中、安藤、石橋、奥村、青木、松本、竹野、各ブロック1人あて
▽技術委（松本）勝、中沢、安藤、佐野、遠藤、深美、塩川、高橋英
▽規約改正委（加藤）渡辺和、保坂、高嶋、的場、青木、若崎、境井、山田計、町田、山田稔、学連（関東）1人
▽登録制度委（宮崎）岡村、中沢、藤本、藤原
▽用具委（浜田）吉田、的場、若崎、松本、清水正、村田弘、大迫
▽機関紙編集委（藤本）佐内
なお懲罰委（吉田）、少年団委（青木）は追って決定する。

国体ニュース

第20回国民体育大会は10月25日から岐阜県下で開かれるが、ハンドボール競技は高山市で行なわれる

1　期　日　昭和40年10月25日（月）から10月29日（金）まで5日間

2　会　場　高山市　高山市営中山競技場

3　選出チーム数

地域名	一般男子	一般女子	教員男子	高校男子	高校女子
北海道	1	1	1	1	1
東　北	4	1	1	1	1
関　東	6	2	1	1	1
東　海	3	2	1	1	1
北　陸	3	1	1	1	1
近　畿	5	1	1	1	1
中　国	2	1	1	1	1
四　国	2	1	1	1	1
九　州	3	1	1	1	1
開催地	1	1	1	1	1
計	30	12	10	10	10

4　参　加　資　格

(1) 日本ハンドボール協会に登録した競技者で、所定の手続きを経たもの。
(2) 所定の身体検査をうけ、健康証明があるもの
(3) 一般男子は居住地か、勤務地のいずれか1カ所からだけ出場することができる
(4) 一般男子にあっては、学生の参加を認めない。ただし、一般女子にあっては、1チーム3人以内に限り、学生の参加を認める
(5) 教員男子にあっては勤務地においてのみ出場資格を有する
(6) 高等学校生徒とは全国高等学校体育連盟の出場規定にもとづくものにして、原級にとどまつたものは認めない

東京都協会告知版

昭和四十年四月三十日
東ハ協第一号

東京都ハンドボール協会
会長　渡辺和美

日本ハンドボール協会
会長　式場隆三郎　殿

前略

私は日本ハンドボール協会全国評議員会の一評議員の資格において、「昭四十日ハ発第三号＝第一回常務理事会議事録」の一部削除、「昭四十日ハ発第四号＝諾否」について回答します。

日本協会は私のこの公文書について五月八日正午までに文書で回答することを要求します。

一、体協に派遣する本会代表役員について

私の回答は「否」

『理由』日本ハンドボール協会を代表する役員人事は、極めて重要な案件である。それを常務理事会で決定し、体協に報告したあと評議員会に対して〝事後承諾〟の形をとるのは本末を転倒している。一部には『常務理事会は執行機関だから当然』のように考えているものもいるが、それは間違っている。事前に評議員会に報告すべきである。評議員会が、これらの人を不適当と認めた場合は、常務理事会はどのような処置をとるのか。また評議員会に対する文書の出し方は今後じゅうぶん注意するよう警告を発しておく。日本協会の回答を求めます。

二、杉山寿氏の件「諾」。

三、「フランス戦剰余金の支出について」の件

まず諾否について回答します。

私の回答は「否」。

『理由』

（1.）本文中、『上記の件は常務理事会に一任されているが、念のため…了承を得ることにした。』とあるが、二月の全国評議員会では常務理事会に一任したことはない。これは執行機関の常務理事会といえども越権行為も甚だしい。いつ一任したか、資料を取りそろえて説明してほしい。しかも「念のため……」ということは、不謹慎極まる言葉である。どういうことなのか理解に苦しむ。説明を求めます。

（2.）しかも『中国五十万円、世界選手権五十万円、ソ連二十万円、韓国二十万円』の金額は、いつ、どこで、だれが決めたものか、説明を求める。全国評議員会は『中国の五十万円』については緊急やむを得ないものとして承認した。しかしその他については、いまだかつて承認した覚えはない。しかも中国遠征を除く他のものは、実に重要な議題である。それを簡単に書面で報告し、諾否を求めようとするのは不届きである。事前に評議員会に意向を打診してあるならばまだ筋が通る。早急に評議員会を招集して協議することを要求する。

（3.）直ちに常務理事会議事録の「3. フランス剰余金について」の項のうち、「今年度の国際試合……了承を得ることにした。」までの文章を削除し、そのむね、各評議員、各常務理事、各理事、各都道府県協会に周知徹底をはかることを強く要求する。

（4.）諾否のみで採決を強行するなら、次回（本年十月）の臨時全国評議員会で、四月以降十月までの常務理事会定事項を全国評議員会の名において全部破棄する用意のあることを明示しておく。さらに文書で諾否を問う場合は、全員一致で決定するように変更することも併せて明示する。これはたとえ一人でも不賛成があれば、議案は成立しない意味である。

（5.）以上について回答を求めます。

（了）

千代田区（千代田印刷機）が初優勝

第18回東京都民体育大会ハンドボール競技会は5月3、5、8、9日の4日間、駒沢第2球技場で行なわれた。男子は千代田区（千代田印刷機製造）が品川区（大崎電気）を破って初優勝した。女子は決勝リーグの結果、品川区（大崎電気）が4連勝した。

「男子A組予選リーグ」

品川区（大崎電気）37―9 渋谷区（若木ク）
台東区（台東ク）20―17 中野区（中野一中OB）
中野区 30―21 渋谷区
品川区 36―7 台東区
渋谷区 20―14 台東区
品川区 42―4 中野区

▽順位 ①品川区 ②渋谷区 ③中野区 ④台東区

「男子B組予選リーグ」

新宿区（安田生命）29―14 大田区（洗足ク）
千代田区（千代田印刷機製造）38―5 杉並区（中瀬ク）
大田区 25―17 杉並区
千代田区 22―10 新宿区
千代田区 46―8 大田区
新宿区 30―8 杉並区

▽順位 ①千代田区 ②新宿区 ③大田区 ④杉並区

「女子決勝リーグ」

品川区（大崎電気）11（8―1 3―5）6 調布市（東京重機）
調布市 20（10―4 10―3）7 昭島市（レナウン）
品川区 22（9―1 13―1）2 昭島市

▽順位 ①品川区 ②調布市 ③昭島市

「男子順位決定戦」

▽7―8位
台東区 29（16―7 13―16）23 杉並区

▽5―6位
中野区 43（27―0 16―6）6 大田区

▽3―4位
新宿区 23（12―10 11―11）21 渋谷区

▽1―2位
千代田区 20（11―9 9―6）15 品川区

「女子模範試合」

大崎電気 17（10―0 7―3）3 三菱鉛筆

地方だより

大洋デパートが受賞

熊日社会賞

熊本日日新聞社は5月3日「第15回熊本社会賞」受賞者（個人5、団体2）を決定した。スポーツ（団体）の部で熊本県スポーツ振興に対して多大の刺激を支えた「大洋デパート・ハンドボールチーム」が選ばれた。贈呈式は12日午前11時から熊本日日新聞社で行なわれ、感謝状、記念品、副賞が贈られた。

枚方高（女）善戦

▽大阪府高校新人室内選手権（2月13、14、20、21日、大阪府立体育会館ほか）

『男子』

▽準々決勝

都島工 11－9 高津
豊中 8－7 北野
佐野工 21－9 住吉
寝屋川 23－13 学大池田

▽準決勝

都島工 15－13 豊中
佐野工 17－5 寝屋川

▽決勝

佐野工 9（5－4、4－3）7 都島工

『女子』

▽準々決勝

寝屋川 12－4 池田
梅花 16－4 八尾
豊中 19－2 鶴見商
枚方 7－3 北淀

▽準決勝

寝屋川 9－4 梅花
枚方 6－4 豊中

▽決勝

寝屋川 13（5－3、8－0）3 枚方

洛星、京都女優勝

▽京都高校春季選手権大会（5月3日、伏見工体育館）

【男子】▽3位決定戦

洛東 24（12－6、12－8）14 嵯峨野

▽決勝

洛星 16（8－4、8－7）11 大谷

【女子】▽3位決定戦

塔南 10（6－2、4－6）8 洛東

▽決勝

京都女 11（5－5、6－4）9 明徳商

早くも全日本予選

▽第17回全日本総合選手権大会富山県予選（4月25日、小杉高）

男子（3チームリーグ）

富山大 14－10 高岡三日会
氷見ク 21－12 高岡三日会
氷見ク 19－13 富山大

▽女子決勝

県富女OG 11－2 高岡女高ク

なお北信越予選は6月末長野で行なわれる。

男女とも加納高

▽岐阜県高校春季選手権（5月1日・岐阜）

〔男子準決勝〕

加納 25－3 岐阜北
岐阜西 13－4 大垣農

〔同決勝〕

加納 13（4－2、9－0）2 岐阜西

〔女子準決勝〕

大垣南 9－4 鶯谷女
加納 26－2 大垣北

〔同決勝〕

加納 9（5－2、4－3）5 大垣南

金沢美大、宿願の初優勝

▽石川県春季選手権（5月2日、松任町）

〔一般男子準決勝〕

県工ク 22－21 石川製作所
金沢美大 23－19 羽咋ク

〔同決勝〕

金沢美大 17（12－5、5－8）13 県工ク

〔高校男子準決勝〕

小松 14－9 県工
金沢商 25－17 二水

〔同決勝〕

小松 14（3－5、11－5）10 金沢商

〔高校女子準決勝〕

金沢商 6－3 松任
小松市女 16－6 羽咋

〔同決勝〕

小松市女 10（5－2、5－1）3 金沢商

美大優勝

▽北信越学生春季リーグ戦（5月5日、富山県高岡商高）

富山大 28（12－5、16－6）11 金沢大
美大 17（8－9、9－7）16 富山大
美大 14（8－5、6－5）10 金沢大

本田技研が優勝

▽三重県春季選手権（5月9日・四日市市）

▽一般男子準決勝

本田技研 36－11 日本合成ゴム
鵜森ク 18－13 三重大

▽同決勝

本田技研 28（11－7、17－6）13 鵜森ク

▽高校男子準決勝

高田 28－15 亀山
四日市工 24－7 津工

▽同決勝

四日市工 24（8－4、16－4）8 高田

▽高校女子準決勝

暁 9－4 松阪女子
亀山 9－8 四日市商

▽同決勝

亀山 7（2－2、5－4）6 暁

編集後記

▽…とにかく月刊になり、いそがしい毎日である。かたときもハンドボールのことが頭から抜けない。好きだからやるようなものだが、よくもまあ、3人のスタッフで5年間もやってきたものだとわれながら感心する。どなたか慰めてくれる方はありませんか。

▽…日本チームの中国遠征は全く期待はずれでがっかり。完全に中国に水をあけられた形。「勝ってくるぞと勇しく…」と出発したが、中国はなかなか手ごわい相手であることがわかった。来年は中国チームが来日するので、そのときは大いにたたきのめしてもらいたい。強化合宿などして…。

▽…本号で山岡二郎氏に「ハンドボール少年団」のことを寄稿してもらった。なかなか読ませるもの。次号は中体連のハンドボールについて寄稿していただく予定。

▽…アンケートの集まりはかなりよかった。〝強化する点〟については、ほとんどがディフェンスの強化とか。大いに補強してハンドボールファンの目を楽しませてください。

▽…「海外ジャーナル」は読んでいて参考になるという話をきく。また本誌の内容が充実してきたとほめる人もいる。うれしい。（ふぐ）

日本ハンドボール協会編
ハンドボール
第二十二号
昭和四十年五月二十[illegible]印刷 発行所
昭和四十年五月二十五日発行 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南町二五
電話大代表(467)三一一一 振替東京五八三四八番
編集兼発行人 高嶋冽
定価 百三十円 (〒)二十円